

IBM ThinkPad

SA88-5967-00

セレクトドック III

ユーザース・ガイド

IBM

IBM ThinkPad

SA88-5967-00

セレクトドック III

ユーザズ・ガイド

注

ここに記載されている情報と、それに対応する製品を使用する前に、必ず付録C、『特記事項』をお読みください。

第 1 版 (1997年8月)

原典	P/N 97H5127 IBM ThinkPad SelectaDock III User's Guide
発行	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当	ナショナル・ランゲージ・サポート

第 1 刷 1997.8

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

使用上の注意	v
電源について	v
最初にお読みください	vii
第1章 セレクタドック III システムの紹介	1-1
製品の確認	1-2
セレクタドック III システムの主な機能	1-3
位置	1-6
インジケーター	1-7
セレクタドック III システムを使用するための準備 (ThinkPad 760/765)	1-8
セレクタドック III (拡張ユニット)へのセレクタベースの接続	1-11
セレクタドック III システムからのセレクタベースの取外し	1-14
ThinkPad のセレクタドック III システムへのドッキング	1-15
第2章 オプションの取付け	2-1
内部オプションの取扱いについて	2-2
サポートされる装置	2-3
ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け	2-6
装置スペースへの装置の取付け	2-10
PCI アダプター・カードまたは ISA アダプター・カードの取付け	2-13
PC カードの取付け	2-16
MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方	2-18
外付け SCSI 装置の接続	2-20
第3章 システムの構成	3-1
IDE 装置のセットアップ	3-2
SCSI 装置のセットアップ	3-6
アダプター・カードのセットアップ	3-9
システム資源の割当て	3-11
第4章 機密保護機能を使用する	4-1
セレクタドック III の機密保護機能	4-2
セレクタドック III システムの機密保護機能	4-3
セレクタドック III システムの共用時の管理	4-5

第5章 ヒントと制限	5-1
ヒント	5-2
制限	5-6
第6章 トラブルシューティング	6-1
警告インジケーター	6-3
問題を起こしている装置の判別	6-5
トラブルシューティング・ガイド	6-10
テストの実行	6-23
修理の依頼	6-25
付録A. SCSI ソフトウェアを使用する	A-1
EZ-SCSI のインストール	A-2
オンライン情報	A-5
フォーマット・ユーティリティー	A-6
付録B. 製品仕様	B-1
寸法	B-1
環境	B-2
電気特性	B-3
外部インターフェース	B-3
IBM 電源コード	B-4
付録C. 特記事項	C-1
索引	X-1

電源について

⚠危険

オプションを取り付けるか、取り外す場合には、事前に電源コードを抜き取ってください。

⚠危険

電源は、ThinkPad の電源スイッチによって入れたり切ったりします。緊急の場合は、セレクトドック III の電源コードを抜き取って電源を切ってください。コンセントは、セレクトドック III の近くにあり、容易にアクセスできるようになっていなければなりません。

⚠危険

感電を防止するために、次のことを守ってください。

雷鳴時には、電源コードやケーブル類の抜き差しをしないこと。また、セレクトドック（拡張ユニット機能）のセットアップ、保守作業、または構成変更をしないこと。

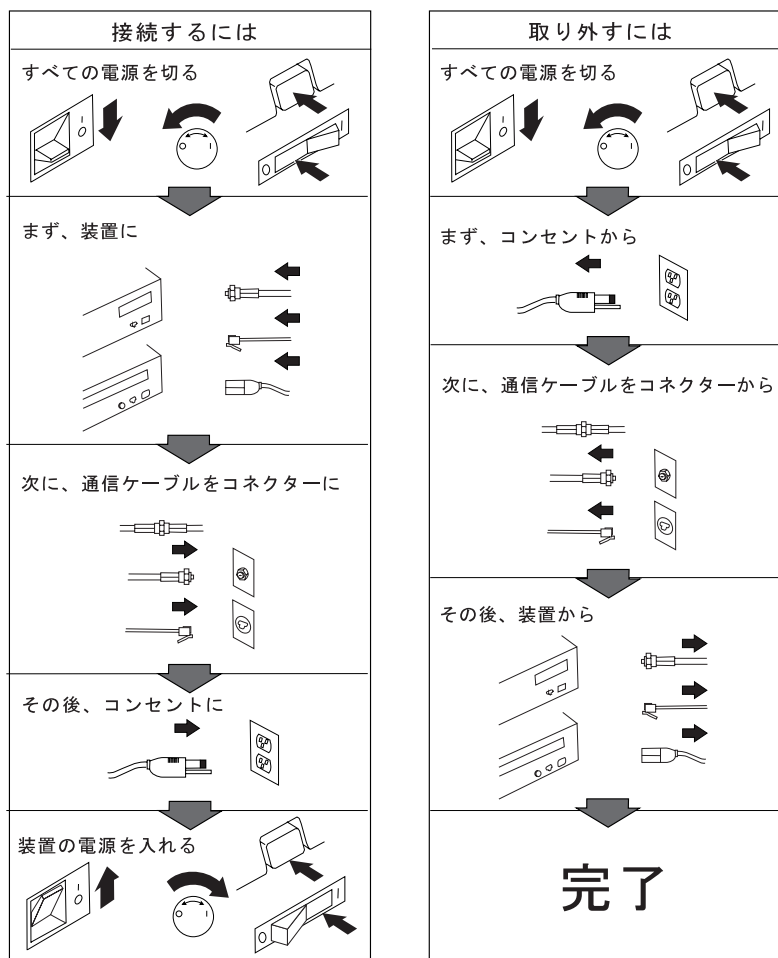
電源コードは、正しく配線され接地されているコンセントに接続すること。

このセレクトドック（拡張ユニット機能）は接地する必要があります。

このセレクトドック（拡張ユニット機能）に接続する装置も、すべて正しく配線され接地されているコンセントに接続すること。

⚠危険

電源コードは、正しく接地された電源コンセントに接続してください。
ケーブル類の取付け、取外し順序
電源コード、電話ケーブル、および通信ケーブルには危険な電流が流れています。感電を防止するために、コンピューターまたは接続装置を設置または移動するとき、またはカバーを開ける際には、下記の手順でケーブルの接続および取外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取り外しをしないでください。

セレクトドック III システムを最初に使用する際には、以下の重要な事項について注意してください。

使用している **ThinkPad** が **PCI** バス・アーキテクチャーのコンピューター・システムであることを確認してください。

セレクトドック III システムは PCI バス・アーキテクチャーのコンピューターだけをサポートしています。以前のセレクトドックのポートリプリケータは PCI バス・アーキテクチャーと ISA バス・アーキテクチャーの両方のコンピューターをサポートしていますが、本製品は ISA バス・アーキテクチャーのコンピューターはサポートしていません。

以下の ThinkPad がサポートされます。

- ThinkPad 760E、760ED、760EL、760XD、および 760XL
- ThinkPad 765D
- ThinkPad 770

ThinkPad 760 および 765 のユーザーは、ThinkPad を最初にセレクトドック III システムにドッキングする前に以下のことを行う必要があります。

1. (Windows 95 のユーザー) INF ファイルをコピーします。(1-8ページの『セレクトドック III システムを使用するための準備 (ThinkPad 760/765)』を参照してください。)
2. システム・プログラムを更新します (BIOS の更新)。
3. Battery Check Utility をインストールします (ThinkPad 765 のユーザーのみ)。
4. ThinkPad 機能設定プログラムを更新します。
5. PC Card Director を更新します。

➡これらのプログラムを更新またはインストールするには、*プログラム導入ガイド* を参照してください。

ThinkPad をセレクトドック III システムに最初にドッキングしてから、**ThinkPad** の電源を入れてください。

ThinkPad のオペレーティング・システムがホット・ドッキングとウォーム・ドッキング をサポートしていれば、この操作によってホット・ドッキングとウォーム・ドッキングが使用可能になります。

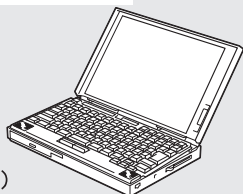
PC Card Director は、PCMCIA リリース 2.1 をサポートするためのプログラムです。

ホット・ドッキングとは、ThinkPad が作動中のとき、またはスタンバイ状態のときにドッキングすることです。ウォーム・ドッキングとは、ThinkPad がサスペンド状態のときにドッキングすることです。

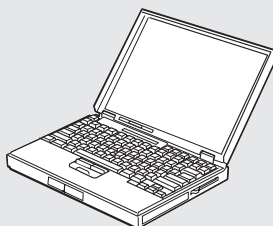
ThinkPad 760 および 765

ドッキングする前に：

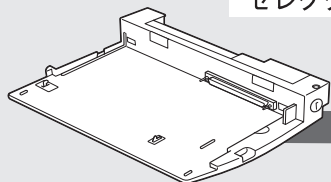
- INF ファイルをコピーする。
(Windows 95のユーザーのみ)
- システム・プログラムを更新する。
- Battery Check Utility をインストールする。
(ThinkPad 765 のみ)
- ThinkPad 機能設定プログラムをインストールする。
- PC Card Director をインストールする。



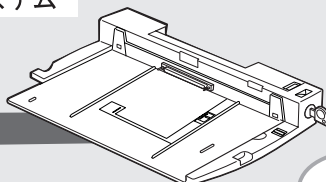
ThinkPad 770



セレクトアドック III システム



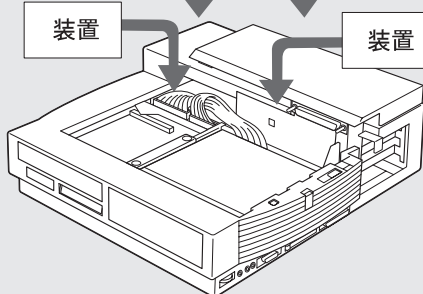
セレクトアドック
(ポート・リプリケータ機能)



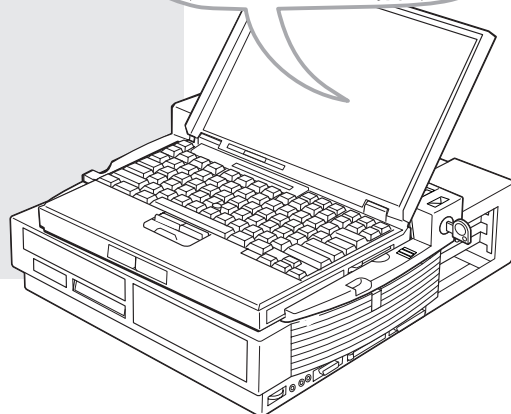
セレクトアドック 770
(ポート・リプリケータ機能)

装置

装置



ThinkPad は
セレクトアドック III
システムを自動的に
認識します。
(Windows 95 の場合)



第1章 セレクタドック III システムの紹介

ハイライト

この章では、セレクタドック III システムの全体的な機能について説明します。セレクタドック III システムをご使用前に、この章をお読みください。

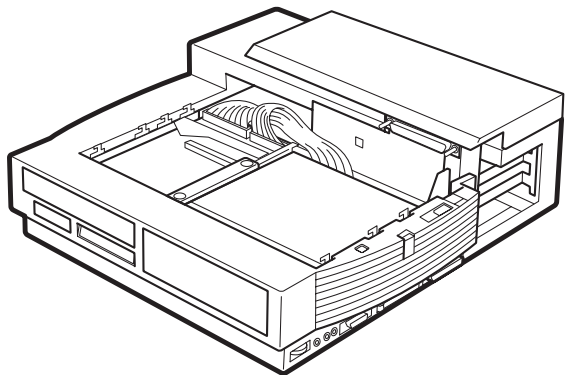
この章の内容:

製品の確認	1-2
セレクタドック III システムの主な機能	1-3
サポートされるシステム	1-3
セレクタドック III システムの機能	1-4
オペレーティング・システム別のセレクタドック III システムの機能	1-5
位置	1-6
インジケータ	1-7
セレクタドック III システムを使用するための準備	
(ThinkPad 760/765)	1-8
セレクタドック III (拡張ユニット)へのセレクタベースの接続	1-11
セレクタドック III システムからのセレクタベースの取外し	1-14
ThinkPad のセレクタドック III システムへのドッキング	1-15
コールド・ドッキング	1-16
コールド・アンドドッキング	1-18
Windows 95 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング	1-19

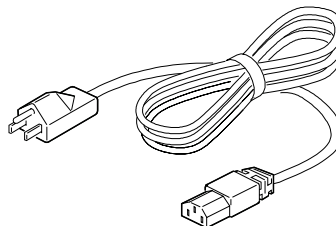
製品の確認

セレクトドック III (拡張ユニット)を開梱したら、次のものがそろっていることを確認してください。万一、不足または損傷しているものがあれば、お買上げの販売店または IBM の担当営業員にご連絡ください。

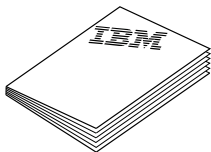
セレクトドック III (拡張ユニット)



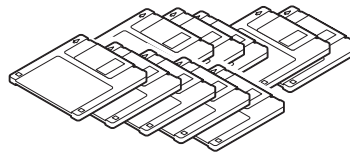
電源コード



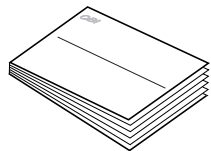
ユーザーズ・ガイド (本書)



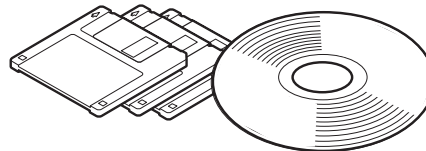
ディスケット 10 枚



プログラム導入ガイド



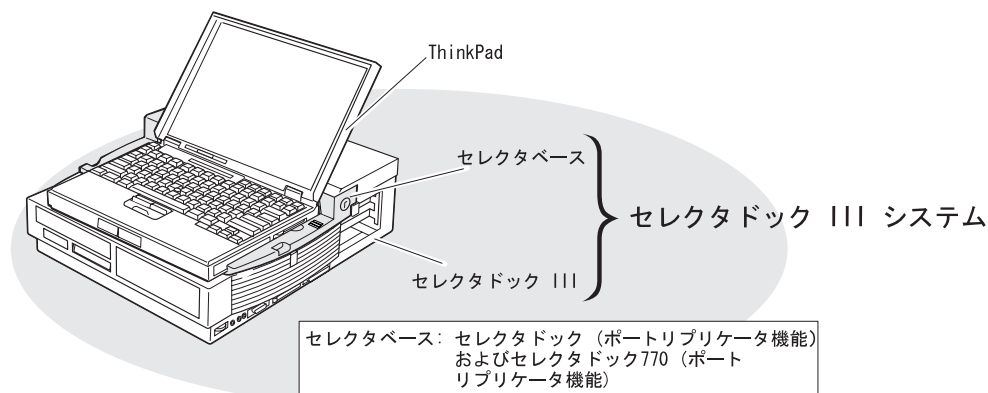
または
ディスク 3 枚と CD-ROM 1 枚



セレクトアドック III システムの主な機能

IBM ThinkPad セレクトアドック III システムは、セレクトアドック III (拡張ユニット)とセレクトアドック (ポートリプリケータ機能) またはセレクトアドック 770 (ポートリプリケータ機能) とで構成され、ThinkPad の機能を拡張します。

これ以降、セレクトアドック (ポートリプリケータ機能) とセレクトアドック 770 (ポートリプリケータ機能) は総称してセレクトアベースと呼び、セレクトアドック III (拡張ユニット) とセレクトアベースの組合せはセレクトアドック III システムと呼びます。



サポートされるシステム

セレクトアドック III システムは、以下の ThinkPad で使用できます。

IBM ThinkPad 760E、760ED、760EL、760XD、および 760XL
IBM ThinkPad 765D
IBM ThinkPad 770

次の表は、ThinkPad各モデルとセレクトドック III システムの組合わせを示しています。

セレクトドック III システムの組合せ		ThinkPad 760E/760ED ThinkPad 760EL ThinkPad 760XD/760XL	ThinkPad 765D	ThinkPad 770
セレクトドック III (拡張ユニット)	セレクトドック 770 (ポート リプリケータ機能)	動作しない	動作しない	動作する
	セレクトドック (ポートリプリケータ機能)	動作する	動作する	動作しない

セレクトドック III システムの機能

ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキング すると、システム全体に以下の追加機能が備わります。

- PCI/ISA 共用スロット 2 つと PCI スロット 1 つ
- IDE 装置または SCSI 装置用のハーフハイト・ベイ 1 つ
- ウルトラベイ II 装置 用のウルトラベイ II トレイ 1 つ
- USB コネクタ 2 つ
- (タイプ II) PCMCIA スロット 2 つ
- SCSI コネクタ 1 つ
- ホット・ドッキングとウォーム・ドッキングのサポート
- セレクトドック III システムを共用する機能
- ThinkPad、セレクトドック III システムの中の装置、およびセレクトドック III システム自体の機密保護

注:

セレクトドック III システムに ThinkPad を取り付けることをドッキング、セレクトドック III システムから ThinkPad を取り外すことをアンドッキングと呼びます。

ThinkPad 770 用の交換可能デバイス。

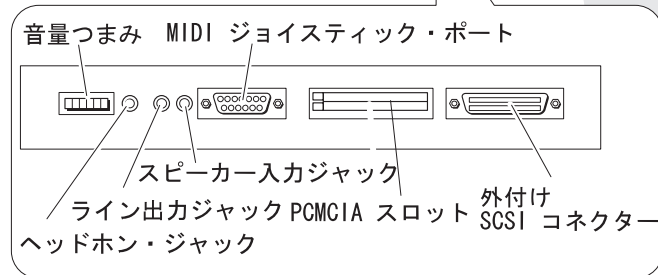
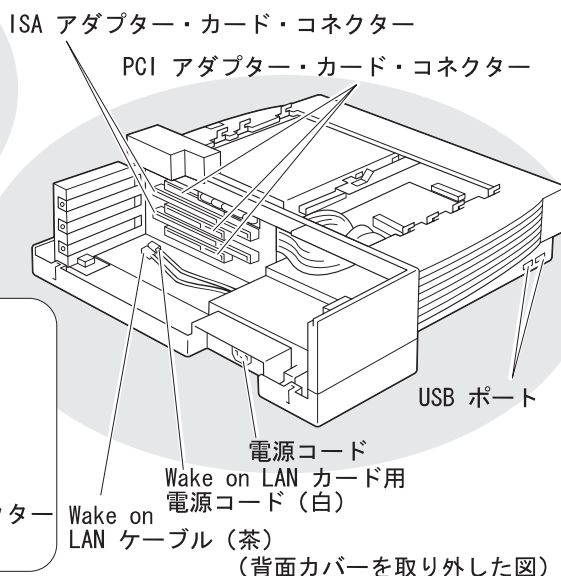
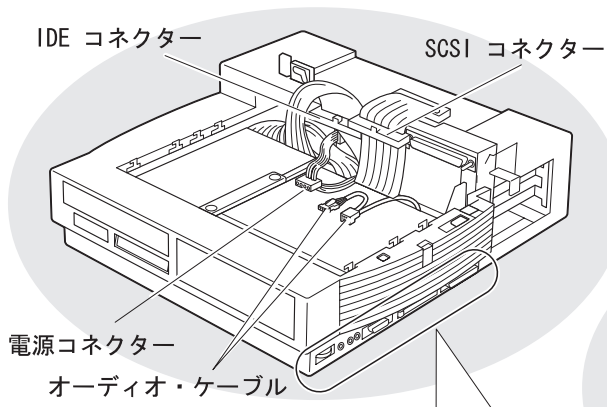
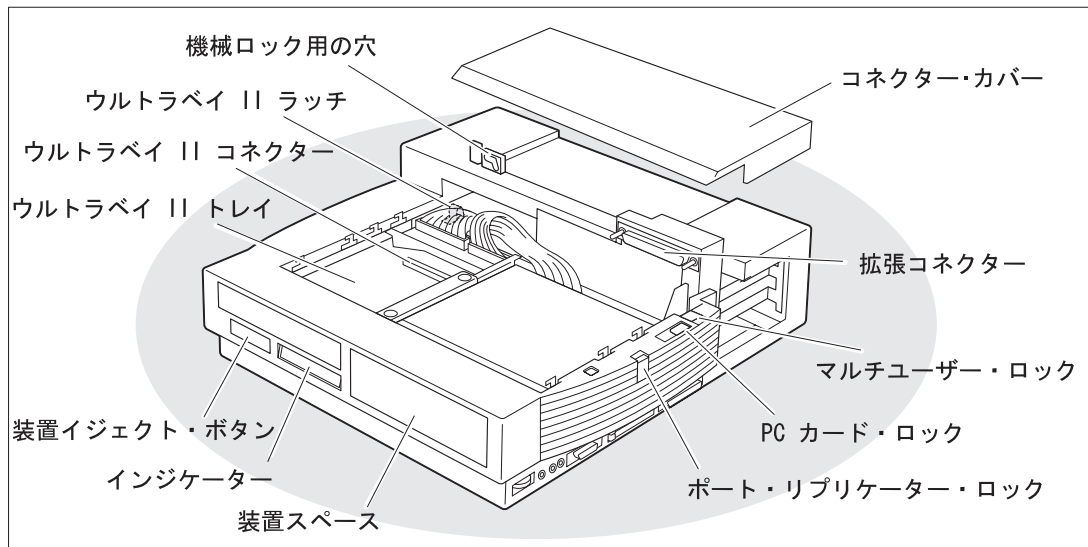
オペレーティング・システム別のセレクトドック III システムの機能

以下の表に、セレクトドック III システムの機能と ThinkPad に入っているオペレーティング・システムとの間の関連を示します。

表 1-1. 機能とオペレーティング・システムの関連表

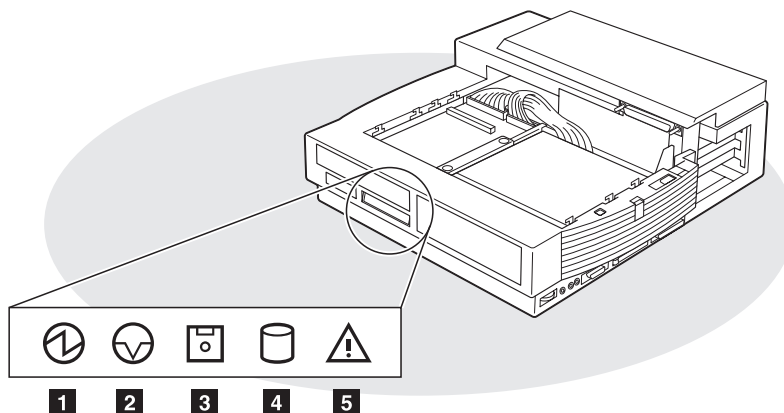
機能	DOS	Windows V3.1	Windows 95	Windows NT (3.51)	Windows NT (4.0)	OS/2 Warp 3.0/4.0
ThinkPad 760E、760ED、760EL、760XD、760XL、または 765D						
EZ-SCSI	動作する	動作する	-	-	-	-
PCMCIA リリース 2	動作する	動作する	動作する	動作する	動作する	動作する
カードバス・カード	動作しない	動作しない	動作しない	動作しない	動作しない	動作しない
ThinkPad 770						
EZ-SCSI	動作する	動作する	-	-	-	-
PCMCIA リリース 2	動作する	動作する	動作する	動作する	動作する	動作する
カードバス・カード	動作する	動作する	動作する	動作しない	動作しない	動作しない
<p>注:</p> <p>セレクトドック III のオプション・ディスクには、DOS 用と Windows V3.1 用の EZ-SCSI が入っています。 PC Card Director は PCMCIA リリース 2.1 をサポートしています。 Windows NT 3.51 のネイティブ・サポート。 プリロードによる PCMCIA リリース 2.1 のサポート。 プリロードによるカードバスのサポート。</p>						

位置



(背面カバーを取り外した図)

インジケータ



	シンボル	インジケータの名称	意味
1		ドッキング	ThinkPad がセレクトドック III システムに正しくドッキングしている。
		電源オン	ThinkPad の電源が入っている。 注: ThinkPad の電源が入ると、“ドッキング”のインジケータが “電源オン”のインジケータに変わります。
2		サスペンド状態	ThinkPad がサスペンド状態である。
3		ディスク・ドライ ブ使用中	ThinkPad またはウルトラベイ II のディスク・ドライブが使用中である。 注: 外付けディスク・ドライブを使用しているときは、IBM ThinkPad FDD 外付けキットのランプが点灯します。
4		ハード・ディスク使用 中	セレクトドック III システムまたは ThinkPad の IDE 装置がアクセスされて いる。
5		警告	インジケータは点灯または点滅し、問題が発生していることを知らせます。

セレクトドック III システムを使用するための準備 (ThinkPad 760/765)

ThinkPad 760 および 765 で Windows 95 を使用しているユーザーは、INF ファイルをコピーする必要があります。以下の手順を実行してください。

注: INF ファイルをコピーする前に、使用している Windows 95 のバージョンを検査します。

1. マイ コンピュータ、コントロール パネル、システムを順にダブルクリックします。
2. システム・フィールドに表示された Windows 95 のバージョンのメモを取ります。(例: 4.00.950 や 4.00.950 B など。)

1 セレクトドック III のオプション・ディスケットを A ドライブに挿入します。

2 Windows のコマンド・プロンプト画面をオープンします。

3 CD C:¥WINDOWS¥INF と入力します。

4 以下のコマンドを入力して、INF ファイルを上書きします。

```
COPY A:¥xxxx¥ .INF C:
```

注: Windows 95 のバージョンが 4.00.950 の場合は、xxxx の箇所に 95 と入力します。

Windows 95 のバージョンが 4.00.950 B の場合は、xxxx の箇所に 95 B と入力します。

5 Enter を押します。

6 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。

ThinkPad 760 および 765 のユーザーは、さらに以下の準備を行う必要があります。

1 システム・プログラムを更新します。

2 ThinkPad 機能設定プログラムを更新します。

3 PC Card Director を更新します。

これらのプログラムを更新またはコピーするには、*プログラム導入ガイド*を参照してください。

これらのプログラムの更新のために、以下のディスクまたは CD-ROM が提供されています。

ディスクでのインストールの場合、

- セレクトドック III オプション・ディスク
- XGA/SVGA モデル用システム・プログラム・サービス・ディスク
- XGA モデル用システム・プログラム・サービス・ディスク
- Windows 3.1 用 IBM ThinkPad ユーティリティ・ディスク
- Windows NT 用 IBM ThinkPad ユーティリティ・ディスク
- Windows 95 用 IBM ThinkPad ユーティリティ・ディスク
- OS/2 用 IBM ThinkPad ユーティリティ・ディスク
- Battery Installation Check Utility Diskette
- Windows NT 4.0 用 IBM ThinkPad PC Card Director
- OS/2 および Windows 95 用 IBM ThinkPad PC Card Director

CD-ROM でのインストールの場合、

- セレクトドック III オプション・ディスク
- VGA/SVGA モデル用システム・プログラム・サービス・ディスク
- XGA モデル用システム・プログラム・サービス・ディスク
- ThinkPad ユーティリティ・プログラムおよび PC Card Director (CD-ROM)

注:

インターネット URL <http://www.ibm.co.jp/pc/home/download.html> から次のディスクを入手できます。

- DOS パーソナライゼーション用 IBM ThinkPad ユーティリティ・ディスク
- DOS および Windows 3.1 用 IBM ThinkPad PC Card Director

ThinkPad 機能設定プログラム

IBM ThinkPad のユーティリティー・ディスクレットには、ThinkPad 機能設定プログラムが入っています。このプログラムを使用すれば、パラレル・ポートや赤外線通信ポートなどの組込み装置のセットアップと設定変更が簡単にできます。

さらに ThinkPad 機能設定プログラムは、システム資源の競合 (IRQ や、DMA、入出カアドレス、メモリーの競合など) を自動的に検出する装置構成管理システムも提供します。この機能により、ThinkPad 機能設定プログラムは新しい装置やソフトウェアのインストールを簡単にします。

IBM ThinkPad PC Card Director

PC Card Director は、以下の機能によって PC カードを使いやすくするユーティリティー・プログラムです。

PC カード・スロットに PC カードを挿入すると、PC カードの電源オンとセットアップを行います。

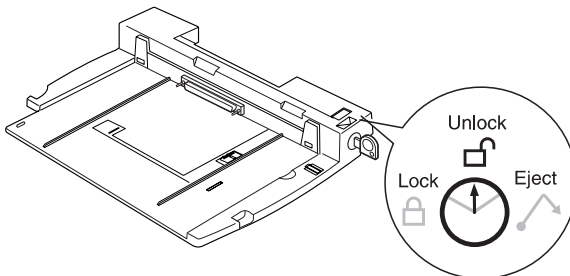
ThinkPad に入っている PC カードのタイプを表示します。

特定の PC カードに対してアプリケーション・プログラムを登録し、カードをインストールしたときにそのプログラムを自動的に始動することができます。

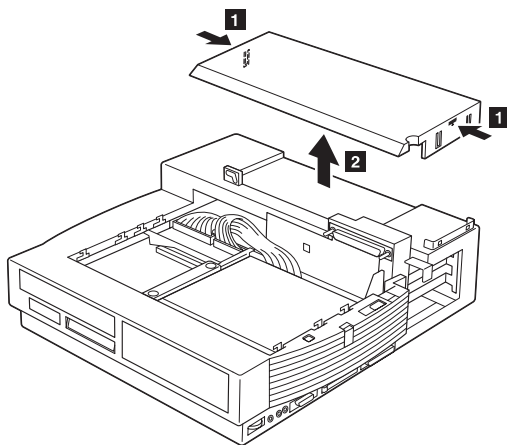
セレクトドック III (拡張ユニット)へのセクタベースの接続

以下の手順は、セレクトドック III (拡張ユニット)にセクタベースを接続する方法を示しています。

- 1 セクタベースの機密保護キーがロック解除の位置に設定されていることを確認します。

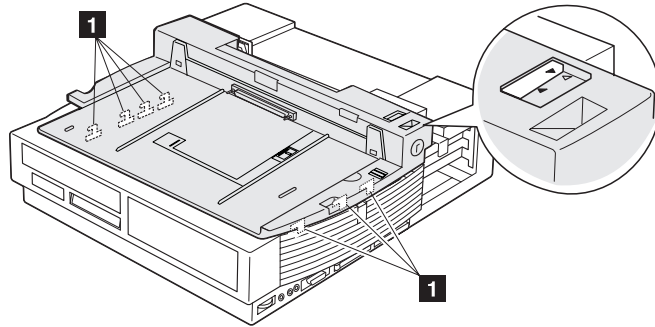


- 2 コネクター・カバーを、両側のフック 1 に指をかけ、カバーを持ち上げて取り外します 2。



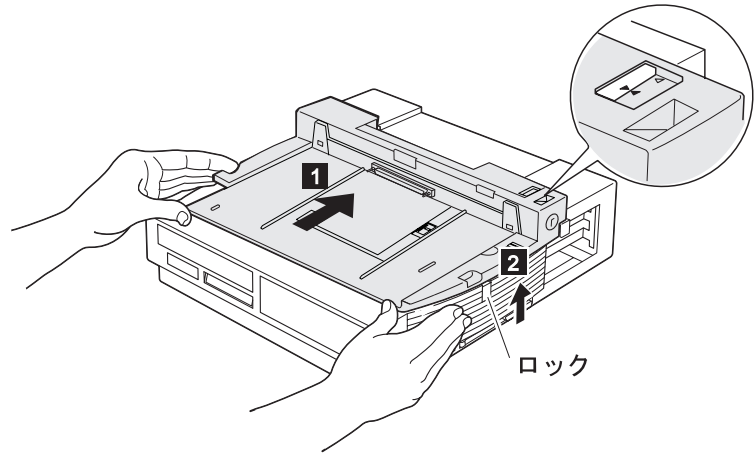
3 セレクタドック III (拡張ユニット) の上にセレクタベースを置きます。

- a) セレクタベースの下側のスリットと、セレクタドック III のガイド 1 の位置を合わせます。
- b) セレクタベースの 1 つ目の三角形がセレクタドック III の三角形に合うようにして (円内に示すとおり)、セレクタドック III の上にセレクタベースを置きます。



- 4** セクタベースをスライドしてセクタドック III に接続し 1、次にロックを上へスライドしてセクタベースをセクタドック III に固定します 2。

注: セクタベースの 2 つ目の三角形がセクタドック III の三角形に合っていることを確認します (円内に示すとおり)。



- 5** セクタドック III システムにコネクター・カバーを取り付けます。

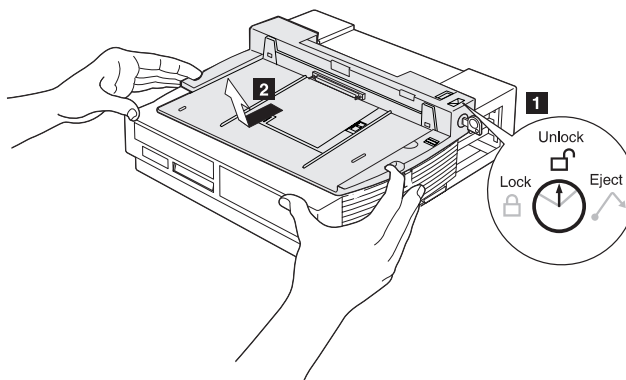
これで、セクタベースのセクタドック III への取付けは完了です。

セレクトドック III システムからのセクタベースの取外し

セレクトドック III システムからセクタベースを取り外すには、以下のよう
にしてください。

- 1** コネクター・カバーを取り外します。
- 2** 周辺装置のケーブルをセレクトドック III システムからすべて外しま
す。
- 3** 電源コードをセレクトドック III システムから外します。
- 4** ロックを下にスライドして、セレクトドック III (拡張ユニット) への
セクタベースのロックを解除します。
- 5** 機密保護キーをロック解除位置に回して 1、セクタベースを取り
外します 2。

注: セクタベースを取り外す際には、図に示すとおり指かけを使いま
す。



- 6** セレクトドック III (拡張ユニット) にコネクター・カバーを取り付け
ます。

これで、セレクトドック III システムからのセクタベースの取外しが完了
しました。

ThinkPad のセレクトドック III システムへのドッキング

ここでは、セレクトドック III システムに ThinkPad をドッキングする方法と、セレクトドック III システムから ThinkPad をアンドッキングする方法を説明します。

注:

1. ドッキングするコンピューターは、PCI バス・アーキテクチャーのコンピューターでなければなりません。間違っても ISA バス・アーキテクチャーのコンピューターをドッキングすると、セレクトドック III の警告インジケーターが点灯してピープ音が鳴ります。
2. **ThinkPad 760** および **765** で **Windows 95** を使用している場合
セレクトドック III システムに最初にドッキングする前に、INF ファイルをコピーし、システム・プログラムを更新する必要があります。
→1-8ページの『セレクトドック III システムを使用するための準備 (ThinkPad 760/765)』を参照。

セレクトドック III システムに対して ThinkPad をドッキングまたはアンドッキングする際のモードには、以下の 3 つがあります。

コールド・ドッキングまたはコールド・アンドッキング

ThinkPad の電源がオフのときに行うドッキングまたはアンドッキング

ホット・ドッキングまたはホット・アンドッキング

ThinkPad が動作しているとき、またはスタンバイ状態のときに行うドッキングまたはアンドッキング

ウォーム・ドッキングまたはウォーム・アンドッキング

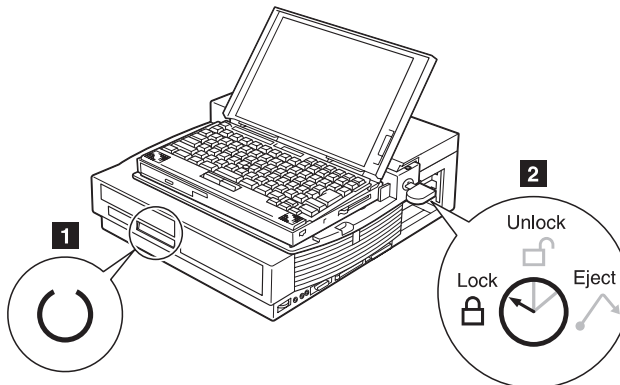
ThinkPad がサスペンド状態のときに行うドッキングまたはアンドッキング

注: ホット・モードまたはウォーム・モードのドッキングまたはアンドッキングは、Windows 95 でのみサポートされています。他のオペレーティング・システムを使用している場合は、ThinkPad をコールド・ドッキングまたはコールド・アンドッキングしてください。

コールド・ドッキング

ThinkPad をコールド・モードでセレクトドック III システムにドッキングするには、以下の手順を実行してください。

- 1 ThinkPad の電源を切ります。
- 2 ThinkPad に接続されているケーブルをすべて外します。
- 3 ThinkPad のキーボードの下の装置を盗難防止したい場合は、ThinkPad の保護機能をセットします。(その手順については、ThinkPad のユーザズ・ガイドを参照してください。)
- 4 電源コードをセレクトドック III の電源コネクタに差し込んでから、コンセントに差し込みます。
- 5 ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングします。(セレクトドック III のマニュアルを参照してください。)
 - a) ドッキング・インジケータ 1 が点灯していることを確認します。
 - b) 装置を盗難から保護したいときは、機密保護キーをロックの位置 2 に回します。回した後はキーを取り外します。



- 6 電源スイッチで ThinkPad の電源を入れます。セレクトドック III システムの電源が自動的に入り、続いて ThinkPad がブートを始めます。セレクトドック III のインジケータにある電源インジケータ



が点灯していることを確認してください。

これで、ThinkPad のセレクトドック III システムへのドッキングが完了しました。

Windows 95 を使用している場合は、次に進みます。

Windows 95 はセレクトドック III システムの状態の検査を開始し、再始動を 2 回行います。

画面の指示に従います。

この操作中に、Windows 95 は **Dock x** という名前のセレクトドック III システム用の構成プロファイルを作成します。

注:

- a) **x** は任意の番号です。
- b) メッセージ “Version Conflict” が画面に現れることがあります。プロンプト “Do you want to keep this file?” に対して **Yes** と答えてください。

7 Windows 95 で、マイ コンピュータ、コントロール パネル、およびシステムをダブルクリックします。

8 ハードウェア環境 タブをクリックします。

9 新しいプロファイル **Dock x** が作成されていることを確認します。デバイス マネージャ・タブを選択して、新しい装置が装置リストに表示されていることを確認します。

Dock x が作成されていない場合は、ステップ 1 (1-16ページ) から繰り返します。

注: シンボル “!” または “X” が装置シンボルの隣に現れた場合は、資源の競合が起こっている可能性があります。システム資源の割当てについては、3-11ページの『システム資源の割当て』を参照してください。

新しいハードウェア・プロファイル **Dock x** が作成されたら、ホット・モードまたはウォーム・モードで ThinkPad のドッキングまたはアンドッキングができるようになります。

コールド・アンドocking

ここでは、ThinkPad の電源がオフのときに ThinkPad をセレクトドック III システムからアンドockingする手順を説明します。

- 1** ThinkPad の電源を切ります。
- 2** ThinkPad を取り外すために、機密保護キーをイジェクトの位置に回します。
- 3** ThinkPad を持ち上げて取り外します。

これで、コールド・アンドockingが完了しました。

Windows 95 でのホット・ドッキングとウォーム・ドッキング

ドッキング

オペレーティング・システムは、コールド・ドッキングをした後でブートするときに、セレクトアドック III システムに取り付けられている装置およびその他の装置の構成を設定します。構成を設定した後は、ThinkPad をホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキングできます。セレクトアドック III システムの装置は、すぐに ThinkPad で使用可能になります。

アンドッキング

Windows 95 を使用しているときにホット・アンドッキングまたはウォーム・アンドッキングを行うには、以下の手順を実行してください。

- 1 以下のいずれかを行って、イジェクトを要求します。

スタート・メニューで 取り出し を選択します。

または

機密保護キーをイジェクトの位置に回してから、キーから手を離します。

オペレーティング・システムにイジェクトの要求が渡されます。イジェクト処理を完了するために時間がかかる場合があります。

注: イジェクト処理が完了したかどうかを調べるには、スタート をクリックします。取り出し が表示されるときは、まだアンドッキングの処理中です。これが表示されないときは、イジェクト処理は終了しています。

- 2 ビープ音が鳴ったときは、もう一度機密保護キーをイジェクトの位置に回して、ThinkPad をセレクトアドック III システムから取り外します。

注: オペレーティング・システムが要求を受け入れられないときは、画面にその理由が表示されます。この場合は、コールド・アンドッキングを実行してください。

— ハイライト —

オプションを取り付けることによって、ThinkPad の機能を拡張できます。この章では、オプションの取付け方法を説明します。

オプションの取付けが完了したら、第 3 章に進んでシステムを構成します。

この章の内容:

内部オプションの取扱いについて	2-2
サポートされる装置	2-3
ウルトラベイ II トレイ	2-3
装置スペース	2-4
アダプター・カード・スロット	2-4
PC カード・スロット	2-5
USB ポート	2-5
ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け	2-6
装置スペースへの装置の取付け	2-10
PCI アダプター・カードまたは ISA アダプター・カードの取付け	2-13
PC カードの取付け	2-16
MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方	2-18
外付け SCSI 装置の接続	2-20

内部オプションの取扱いについて



オプションを取り付けるか、取り外す場合には、事前に電源コードを抜き取ってください。

注意

CD-ROM ドライブは、レーザー・システムを使用します。本製品を正しくご使用になるために、**CD-ROM** ドライブのマニュアルを注意してお読みください。マニュアルは、後で必要になることがあるので保管しておきましょう。装置の保守が必要な場合は、正規の担当者にお任せください。

操作ボタン、調整つまみ、または指定されていない方法を使用すると、有害な放射線を浴びる場合があります。

レーザー光線の直接の被ばくを避けるために、入れ物を開けないでください。

重要

オプションを取り付ける指示があるまで、オプションの入っている静電気防止用袋を開けないでください。静電気によってオプションを損傷することがあります。

オプションを取り付けるように指示があったときは、静電気防止用袋を開ける際に次のことを守ってください。

オプションの入った静電気防止用袋をセレクトドック III の金属部分に最低 2 秒間接触させてください。これによって、袋と身体に帯びている静電気を取り除きます。

オプションの回路には触れないでください。

他の人がオプションに触れないように注意してください。

なるべく身体を動かさないでください。動くとき静電気を帯びる原因になります。

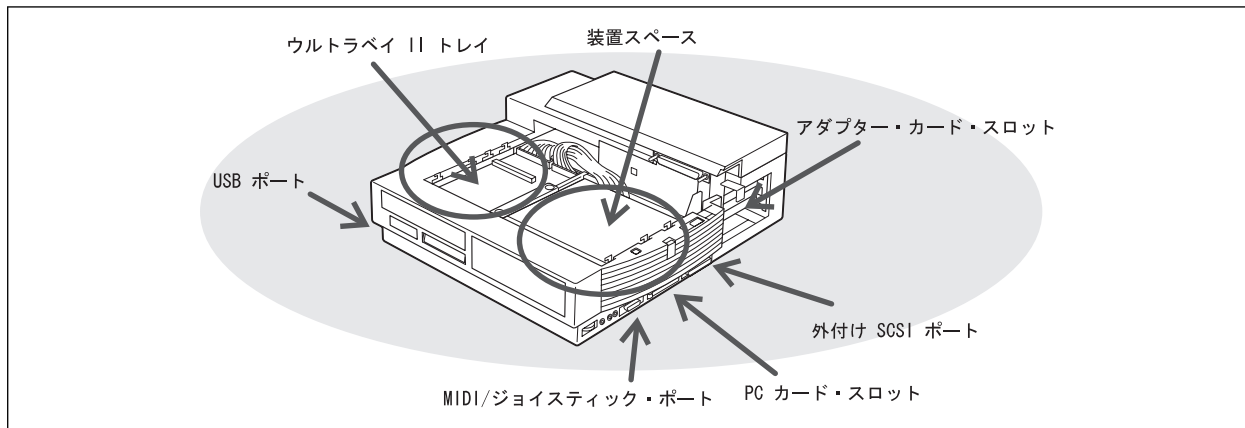
オプションは常に丁寧に扱い、端の部分を持ってください。

袋から取り出した後でオプションを一時的にどこかに置かなければならないときは、平な場所で静電気防止用袋の上に置いてください。オプションは金属性のテーブルの上に置かないでください。

セレクトドック III システムのウルトラベイにダスト・カバーがかぶせてある場合は取り外します。

サポートされる装置

セレクトドック III システムには、オプション・ドライブを取り付けるためのウルトラベイ II トレイと装置スペースがあります。背面にはアダプター・カード・スロットがあり、側面には外付け SCSI ポート、PC カード・スロット、および MIDI/ジョイスティック・ポートがあります。



ウルトラベイ II トレイ

ウルトラベイ II トレイは、以下のオプションを収容します。

ディスク・ドライブ (FDD)

IDE 装置

- CD-ROM ドライブ
- 接続機構付きのハード・ディスク・ドライブ (HDD)

各ドライブは、ThinkPad 770 シリーズのウルトラベイ II と互換性のあるものでなければなりません。

重要

セレクトドック III システムには、ディスク・ドライブを一度に 1 台だけ取り付けられます。外付けディスク・ドライブを取り付けたときは、ウルトラベイ II にディスク・ドライブを取り付けないでください。複数のドライブを取り付けて使用すると、ディスクのデータが破壊される恐れがあります。

装置スペース

セレクトドック III システムの装置スペースに、以下のオプションを取り付けることができます。

- IDE ドライブ
 - CD-ROM ドライブ
 - ハード・ディスク
- SCSI ドライブ

ドライブを取り付ける前に、セレクトドック III システムのコネクターを調べて、正しいドライブを接続します。

アダプター・カード・スロット

セレクトドック III システムには、以下のタイプのアダプター・カードを取り付けることができるスロットがあります。

スロット 1:

フルサイズ PCI アダプター・カード (上のコネクター)

または

フルサイズ ISA アダプター・カード (下のコネクター)

スロット 2:

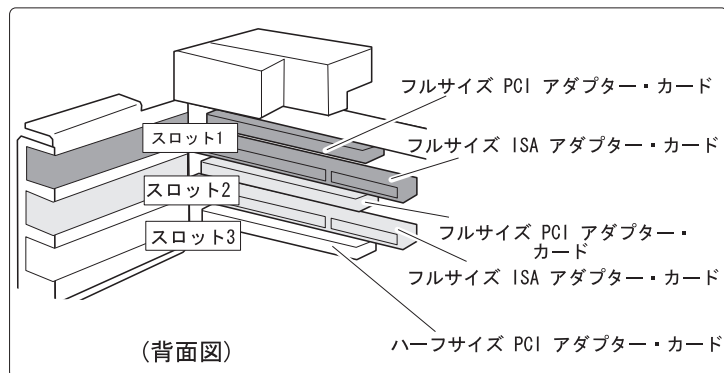
フルサイズ PCI アダプター・カード (上のコネクター)

または

フルサイズ ISA アダプター・カード (下のコネクター)

スロット 3:

ハーフサイズ PCI アダプター・カード



Wake on LAN (WOL) サポート

セレクトドック III システムは、以下の Wake on LAN カードをサポートしています。

注: Wake on LAN 機能を使用できるのは、ThinkPad 770 のユーザーだけです。

IBM Wake on LAN トークンリング ISA アダプター (55H6828)

IBM 100/10 EtherJet PCI Wake on LAN アダプター (85H9952)

PC カード・スロット

セレクトドック III システムの 2 つの PC カード・スロットは、以下の PC カードの組合せのいずれかを収容できます。

タイプ I またはタイプ II のカード 2 枚

タイプ III のカード 1 枚 (下部のスロットのみ)

USB ポート

ユニバーサル・シリアル・バス (USB) 機能は、ThinkPad 760 と 765 ではサポートされていません。この機能を使用できるのは ThinkPad 770 のみです。

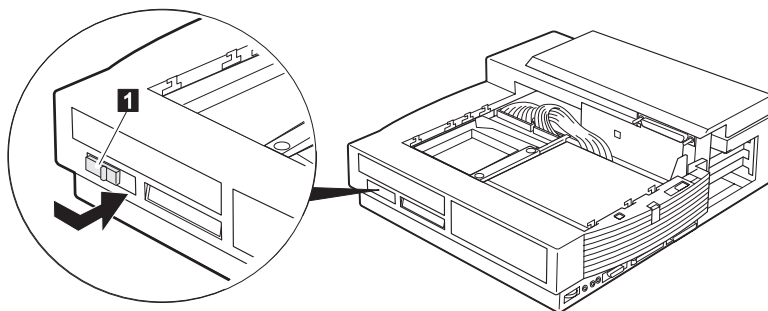
ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け

ウルトラベイ II トレイに装置を取り付ける前に、以下のことを確認してください。

- 電源がオフになっている。
- ThinkPad がアンドッキングされている。
- セレクトベースが切り離されている。

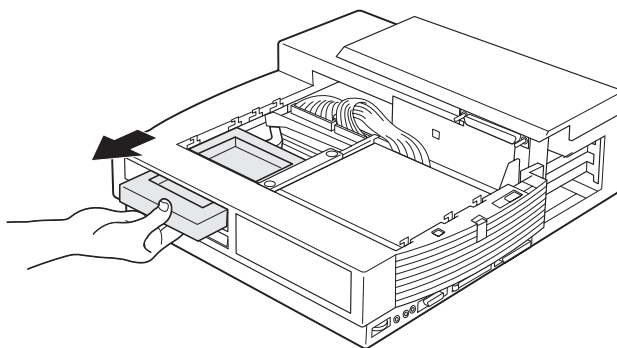
装置を取り付けるには、以下の手順を実行してください。

- 1** レバー 1 をスライドして押します。



- 2** スペースがあれば取り外します。

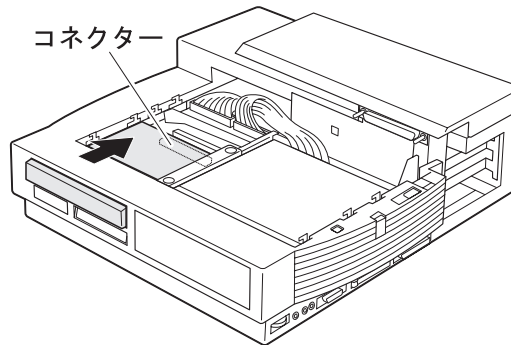
注: ウルトラベイ II トレイの中に、セレクトドック III (拡張ユニット) の出荷時にはスペースが入っています。



3 使用するウルトラベイ II 装置を取り付けます。

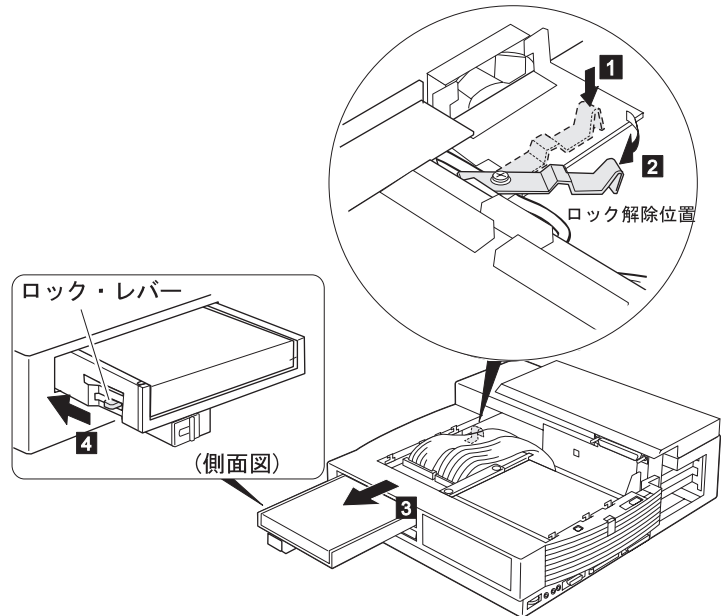
装置をコネクタに完全に接続するようにしてください。

注: ThinkPad 760、765 用 HDD を取り付ける場合は、まず、HDD をセカンド・ディスク・パック用アダプター (オプション) に取り付けたものを、ウルトラベイ II トレイに取り付けます。



4 ウルトラベイ II トレイの中の装置を盗難防止する場合は、以下のようにしてイジェクト・ボタンをロックします。

- a) ウルトラベイ II トレイのラッチを押して外し 1、右回りに回転させます 2。
- b) ウルトラベイ II トレイを手前に引きます 3。
- c) ウルトラベイ II トレイの左側のロック・レバーをスライドします 4。



- d) ウルトラベイ II トレイを再度取り付けて、ベイをラッチで固定します。

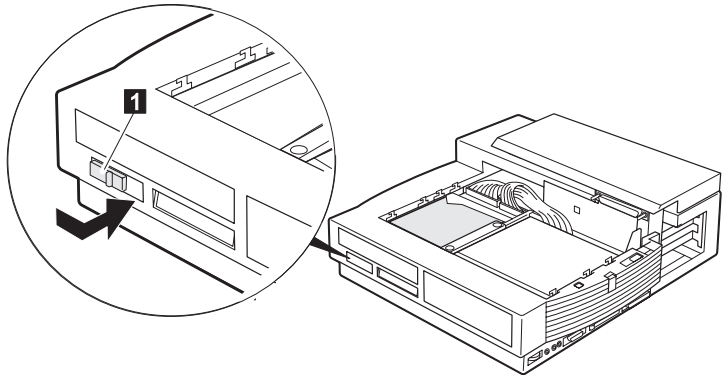
これで、ウルトラベイ II トレイへの装置の取付けが完了しました。

装置を取り付けたら、第3章に進んでシステムを構成します。

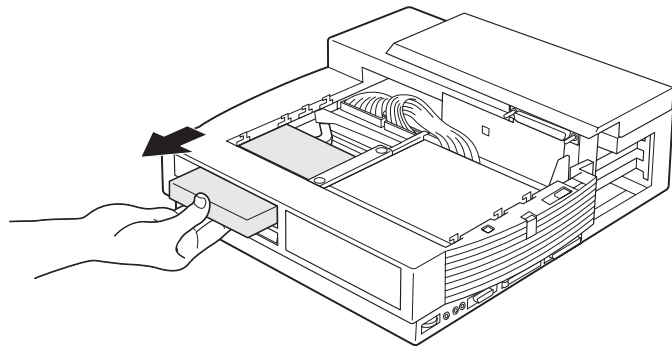
取り外すとき

ウルトラベイ II トレイから装置を取り外すには、以下の手順を実行してください。

1. トレイ内の装置を保護している場合は、装置イジェクト・ロックを解除します。
2. レバー 1 をスライドして押します。トレイ内の装置のロックが解除されます。



3. 装置を取り外します。



注: オペレーティング・システムを終了する前に装置を取り外さないでください。電源が入っている間にレバー 1 をスライドすると、ピープ音が鳴ります。

装置スペースへの装置の取付け

装置スペースに IDE ドライブまたは SCSI ドライブを取り付けるには、次の手順を実行してください。

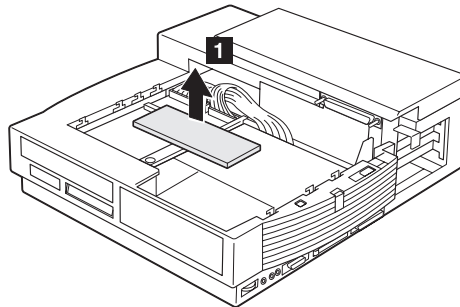
IDE 装置を取り付けるとき

IDE 装置には、マスター、スレーブ、ケーブル・セレクトの 3 つのモードがあります。セレクトドック III システムに IDE 装置を取り付ける前に、ケーブル・セレクト・モードを選択してください。この手順については、IDE 装置に付属のマニュアルを参照してください。ケーブル・セレクト・モードを選べない場合は、次の方法の 1 つを実行してください。

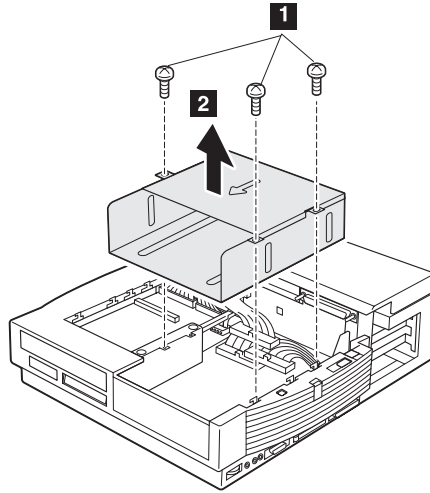
ハード・ディスクがウルトラベイ II トレイに取り付けられていない場合は、マスター・モードに設定します。

ハード・ディスクがウルトラベイ II トレイに取り付けられている場合は、スレーブ・モードに設定します。

1 前面上部のカバー 1 を取り外します。



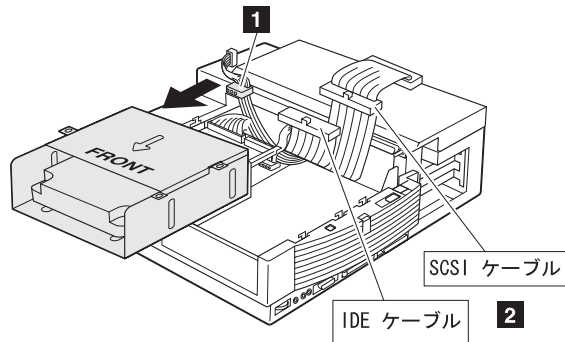
2 3つのねじ 1 を取り外して、フレームを引き上げます 2。



3 フレームの中にドライブを入れてねじで留めます。

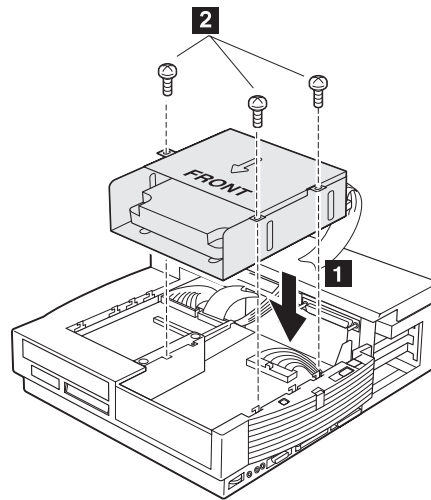
注: 装置の方向が正しいことを確認してください。

4 フレームの中のドライブに、電源ケーブル 1 と IDE ケーブルまたは SCSI ケーブル 2 を接続します。必要に応じ、オーディオ・ケーブルも接続します。



5 フレームを装置スペースに戻して 1、ねじ 2 を締めます。

注: ケーブルが装置スペースの上にあることを確認してください。



6 前面上部のカバーを再度取り付けます。

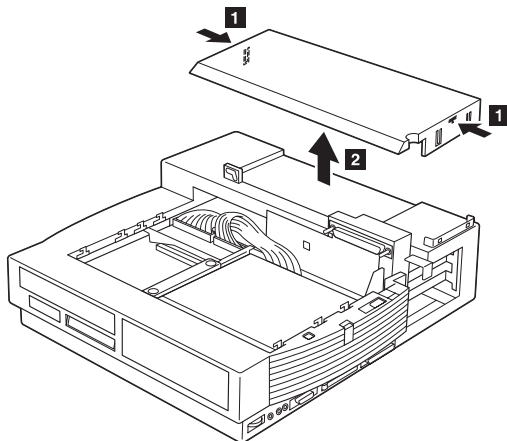
これで、装置スペースへのドライブの取付けが完了しました。

装置を取り付けたら、第3章に進んでシステムを構成します。

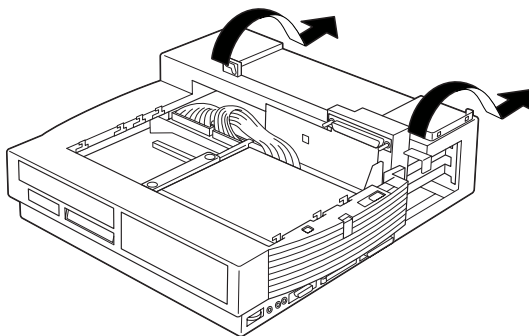
PCI アダプター・カードまたは ISA アダプター・カードの取付け

セレクトドック III (拡張ユニット) にアダプター・カードを取り付けるには、以下の手順を実行してください。

- 1 コネクター・カバーを、両側のフック 1 を引き出してから、カバーを持ち上げて取り外します 2。

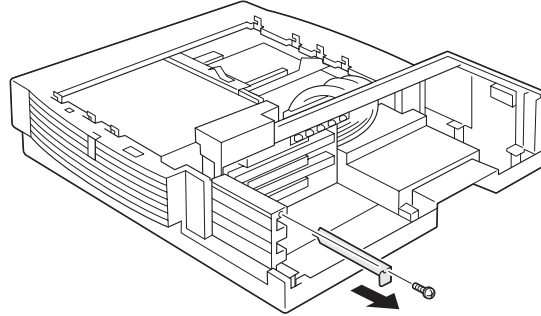


- 2 背面カバーを開けて取り外します。

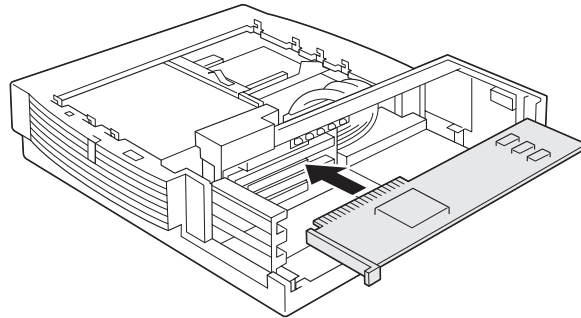


- 3 必要な場合は、アダプター・カードに付属の説明書に従ってアダプター・カードのスイッチやジャンパーを設定します。後で参照するために、その説明書のスイッチやジャンパーの情報のメモを取っておいてください。

- 4** 金属ブラケットを固定しているねじを取り外します。次に、金属ブラケットを取り外します。

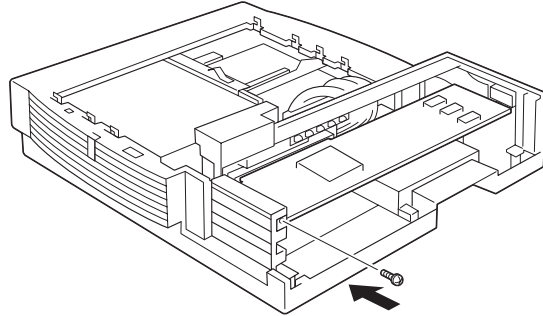


- 5** アダプター・カードを取り付けます。

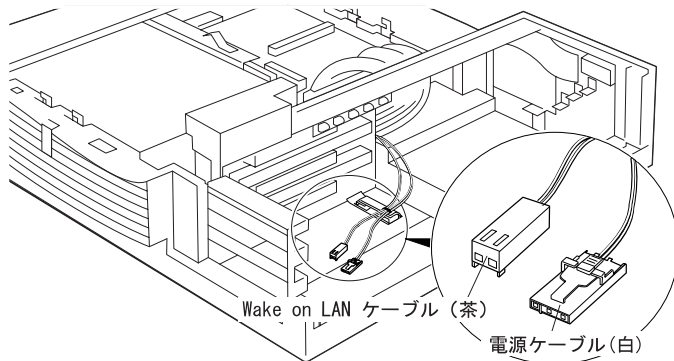


注: スロット 1 と 2 では、上の (小さい方) コネクタは **PCI** アダプター・カード用で、下の (大きい方) コネクタは **ISA** アダプター・カード用です。スロット 3 のコネクタは、ハーフサイズ **PCI** アダプター・カード用です。

- 6** 金属ブラケットを留めていたねじを締めて、アダプター・カードをソケットに固定します。



Wake on LAN カードを取り付けている場合は、Wake on LAN ケーブル (茶) と電源ケーブル (白) を LAN カードのコネクターにそれぞれ接続します。



- 7** 背面カバーを取り付けて閉じます。
- 8** ケーブルと電源コードを再接続します。
- 9** セレクトドック III (拡張ユニット) にコネクター・カバーを取り付けます。

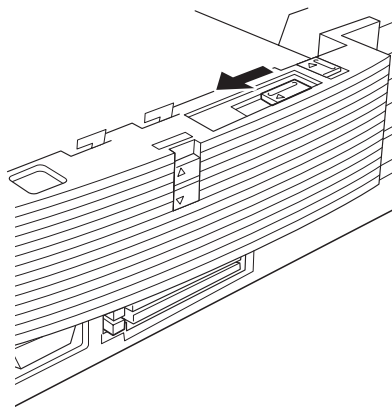
これで、アダプター・カードの取付けが完了しました。

アダプター・カードを取り付けたら、第3章に進んでシステムを構成します。

PC カードの取付け

PC カードを取り付けるには、以下の手順を実行してください。

- 1** PC カード・ロックをロック解除位置に合わせます。
- 2** 使用するスロットを決めます。タイプ III のカードは下部のスロットにだけ挿入できます。
- 3** カードをスロットに合わせ、完全に止まるまで挿入します。
注: PC カードをスロットに完全に取り付けるようにしてください。
取付けがゆるいと、エラーの原因になります。
- 4** PC カードの機密保護のために、PC カード・ロックをロック位置に合わせます。



これで、PC カードの取付けが完了しました。

— PC カードのプラグ・アンド・プレイ —

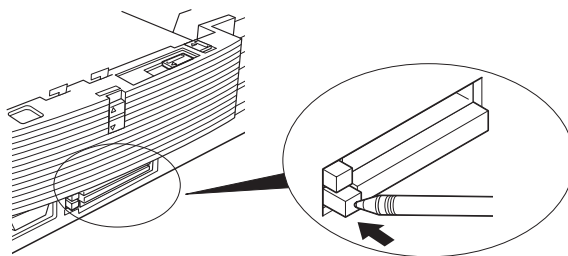
PC Card Directorと、PC カード用のデバイス・ドライバーをインストールすれば、セレクトドック III システムのスロットでその PC カードを使用できます。この機能はプラグ・アンド・プレイと呼ばれます。

詳細については、ThinkPad のユーザズ・ガイドを参照してください。

— 取り外すとき —

カードを取り外すには、対応するイジェクト・ボタンを押します。

注: 指でボタンを押すのが難しいときは、以下のような先のとがったものを使用してください。



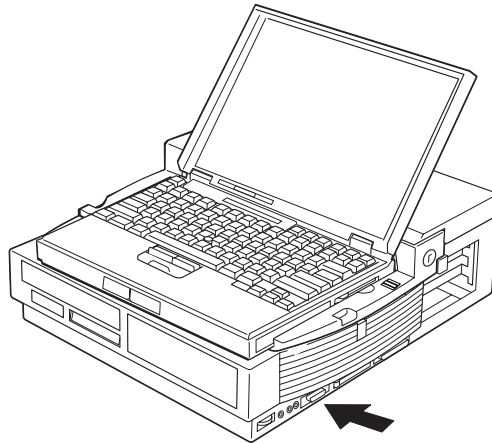
MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方

セレクトドック III システムには、ThinkPad の MIDI/ジョイスティック・ポートと機能的に同じ MIDI/ジョイスティック・ポートがあります。このポートからの MIDI 信号は、ThinkPad の MIDI ポートに直接送られます。このため、ThinkPad に MIDI ポートがなければ、MIDI 機能を使用することはできません。

セレクトドック III システムには、ジョイスティック用のゲーム・コントローラーがあります。ThinkPad にゲーム・コントローラーがない場合でも、セレクトドック III システム内のコントローラーが使用可能で、ThinkPad 機能設定プログラムによって制御が行われます。セレクトドック III システムにジョイスティックを接続して使用する場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを用いてゲーム機能を使用可能にする必要があります。

MIDI/ジョイスティック・ポートを使用するには、以下の手順を実行してください。

- 1** ThinkPad の電源を切り、セレクトドック III システムから電源コードを抜き取ります。
- 2** MIDI コネクターまたはジョイスティック・ケーブルをポートに接続します。



- 3 ケーブルの他端を MIDI 装置コネクタまたはジョイスティックに接続します。

注

Sound Blaster と互換性のある ISA アダプター・カードが取り付けられている場合は、MIDI/ジョイスティック・ポートは使用しないでください。使用すると、資源の競合の問題が起きます。

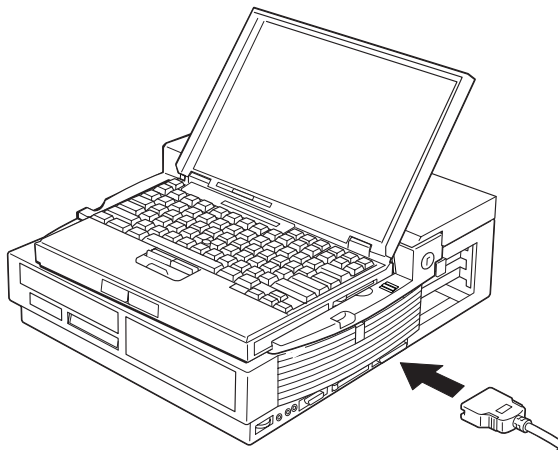
このようなカードを使用する場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを用いてポート機能を使用不能にします。

これで、MIDI/ジョイスティック・ポートの接続が完了しました。

外付け SCSI 装置の接続

外付け SCSI 装置を SCSI コネクタに接続できます。セレクトドック III システムの SCSI コントローラーは、Fast SCSI (Ultra-SCSI) Adaptec AIC-7860 コントローラーと互換性があり、50 ピンのハーフピッチ SCSI コネクタを装備しています。

ドライブの取付けは、SCSI 装置に付属の説明書に従って行ってください。



注

外付け SCSI ケーブルはドライブに付属していますが、コンピューター販売店で購入することもできます。

システムの電源を入れる前に、すべての外付け SCSI 装置の電源を入れてください。

システムの構成については、3-6ページの『SCSI 装置のセットアップ』を参照してください。

ハイライト

オプション装置を取り付けたら、ThinkPad 機能設定プログラムを使用して ThinkPad を構成する必要があります。この章では、ThinkPad を構成する方法を説明します。

注: ThinkPad を構成する際には、セレクトドック III システムから ThinkPad を取り外してください。

この章の内容:

IDE 装置のセットアップ	3-2
DOS の場合	3-2
Windows 3.1、Windows NT、Windows 95、または OS/2 Warp の場合	3-3
SCSI 装置のセットアップ	3-6
Windows 95 の場合	3-6
アダプター・カードのセットアップ	3-9
DOS の場合	3-9
Windows 3.1、Windows NT、Windows 95、または OS/2 Warp の場合	3-9
システム資源の割当て	3-11

IDE 装置のセットアップ

IDE 装置をセレクトドック III システムに取り付けた場合は、IDE コントローラーが使用可能になるようにします。この手順は、ThinkPad のオペレーティング・システムによって異なります。

DOS の場合

ThinkPad 760 および **765** を使用している場合は、以下のようにします。

- 1** DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。
PS2 ? IDE2
これによって、IDE アダプターの状態が表示されます。
- 2** IDE アダプターが使用不能になっているときは、次のように入力します。
PS2 IDE2 Enable
これによって IDE アダプターが使用可能になります。
- 3** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。
これで、セットアップが完了しました。

ThinkPad 770 を使用している場合は、以下のようにします。

- 1** PS2 ? PCIIRQ コマンドを使用して、IRQ11、15 以外の IRQ を PCI IRQ に選択します。

注: 上記の IRQ に選択するために、装置またはポートを使用不可にする必要があるかも知れません。PIC IRQ の選択時に、ハードウェアの競合を示すメッセージが現れた場合は、その IRQ に現在割り当てられている装置を使用不可にしてください。

- 2** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。
- 3** DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。
PS2 ? IDE3
これによって、IDE アダプターの状態が表示されます。

4 IDE アダプターが使用不能になっているときは、次のように入力します。

PS2 IDE3 Enable

これによって IDE アダプターが使用可能になります。

5 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。

これで、セットアップが完了しました。

Windows 3.1、Windows NT、Windows 95、または OS/2 Warp の場合

ThinkPad 760 および 765 を使用している場合は、以下のようにします。

1 ThinkPad フォルダーを選択します。

2 ThinkPad 機能設定 アイコンを選択します。

3 拡張ユニット () ボタンをクリックします。


4 「IDE デバイスを使用する」を選択します。


5 OK をクリックし、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。

6 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。


ThinkPad 770 で Windows 95 を使用している場合は、以下のようにします。


1 スタートをクリックし、カーソルをプログラムの上に移動し、次に ThinkPad の上に移動して、ThinkPad 機能設定 をクリックします。

2 拡張ユニット () ボタンをクリックします。

- 3** 次に表示されるウィンドウで、1 番目の IRQ に IRQ11、15 以外の IRQ を設定します。(IRQ9 を選択することを推奨します。)
- 4** **OK** をクリックし、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。
- 5** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。
- 6** **ThinkPad** フォルダーを選択します。
- 7** **ThinkPad** 機能設定アイコンを選択します。
- 8** 拡張ユニット () ボタンをクリックします。
- 9** 「拡張ユニットの **IDE** デバイスを使用する」を選択します。
- 10** サード・チャンネルを選択します。
- 11** **OK** をクリックし、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。
- 12** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリブートします。

ThinkPad 770 で **Windows NT** および **OS/2 Warp** を使用している場合は、以下のようにします。

- 1** **ThinkPad** フォルダーを選択します。
- 2** **ThinkPad** 機能設定アイコンを選択します。
- 3** 拡張ユニット () ボタンをクリックします。
- 4** 詳細設定... ボタンを選択します。
- 5** **PCI** デバイス設定 ボタンを選択します。
- 6** 次に表示されるウィンドウで、1 番目の IRQ に IRQ11、15 以外の IRQ を設定します。

- 7** **OK** をクリックし、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。
- 8** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリポートします。
- 9** **ThinkPad** フォルダーを選択します。
- 10** **ThinkPad** 機能設定アイコンを選択します。
- 11** 拡張ユニット () ボタンを選択します。
- 12** 「**IDE** デバイスを使用する」を選択します。
- 13** **サード** を選択し、次に **サード IDE** デバイス ウィンドウで選択項目のいずれかを選択します。
- 14** **OK** をクリックし、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。
- 15** 変更した内容を有効にするために、ThinkPad をリポートします。

SCSI 装置のセットアップ

セレクトドック III システムに SCSI 装置を取り付けたら、使用しているオペレーティング・システムに該当する付録またはマニュアルを参照してください。

DOS および Windows 3.1 の場合 → 付録A。

その他のオペレーティング・システムの場合 → オペレーティング・システムまたは SCSI 装置に付属のマニュアル

注: Windows NT を使用しており、Adaptec SCSI ハード・ディスク周辺装置に依存しないハード・ディスクおよび CD-ROM 以外のドライブを使用する場合は、以下のウェブ・サイトから AHA-2940U 用のドライバーを入手してください。

<http://www.adaptec.com/>

Windows 95 の場合

SCSI コントローラーを更新するには、以下のようにします。

- 1** マイ コンピュータ、コントロール パネル、およびシステムを順にダブルクリックします。
- 2** デバイス マネージャ・タブをクリックします。
- 3** SCSI コントローラーの選択項目の + マークをクリックします。
サブメニューが表示されます。
- 4** Adaptec AHA-294X/78XX PCI SCSI Controller をクリックして選択し、次にプロパティ・ボタンを選択します。
- 5** ドライバ・タブを選択します。
- 6** ドライバの更新をクリックします。

- 7** ディスケット・ドライブにオプション・ディスクを挿入し、はい (通常はこちらを選んでください) が選択されていることを確認します。
- 8** 次へ をクリックします。
- 9** 完了 をクリックします。
- 10** “ディスクの挿入” ウィンドウで **OK** をクリックします。
ファイルのコピー ウィンドウが表示されます。
- 11** C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS を A:¥ に変更します。
- 12** **OK** ボタンをクリックします。
ウィンドウの指示に従います。

SCSI ID

SCSI ID を割り当てる必要があり、装置のデジター・チェーンの終端にはターミネーターを取り付ける必要があります。SCSI 装置のセットアップの際には、以下を参照してください。

SCSI コネクターに取り付ける各装置には、固有の SCSI ID を割り当てる必要があります。7 はセレクトドック III システム内の SCSI 装置の ID で、0-6 は外付け SCSI 装置の ID です。

SCSI ID の設定方法については、SCSI 装置に付属のマニュアルを参照してください。

SCSI の終端

内蔵 SCSI 装置の終端

内蔵 SCSI ケーブルは、末端で自動的に終端します。セレクトアドック III システム内に SCSI 装置を取り付ける場合は、ターミネータを使用不可にするか取り外してください。

外付け SCSI 装置の終端

外付け SCSI 装置を接続する場合は、デイジー・チェーンの終わりで SCSI 装置を終端します。このとき他の SCSI 装置が終端されていないことを確認してください。

アダプター・カードのセットアップ

ThinkPad 機能設定プログラムを使用してアダプター・カードを構成する前に、以下の注をお読みください。

注:

ThinkPad をセレクトドック III システムに初めてドッキングする前に、以下の手順を実行してください。

プラグ・アンド・プレイに対応していない (例: ISA アダプター) アダプター・カードを取り付けた場合は、ThinkPad で ThinkPad 機能設定プログラムを使用して、取り付けたアダプター・カードにシステム資源を割り当てます。詳細については、3-16 ページを参照してください。

システムを構成するには、ThinkPad 機能設定プログラムを使用します。使用しているオペレーティング・システム別に、以下の手順を実行します。

DOS の場合

1 DOS のコマンド・プロンプトで、次のように入力します。

PS2 ?

このコマンドにより、システム資源の割当てに使用できるコマンドが分かります。コマンドの詳細については、ThinkPad のオンライン・ブックを参照してください。


2 システム資源を割り当てます。

オペレーティング・システム用のデバイス・ドライバーをインストールするには、アダプター・カードに付属のマニュアルに記載されているインストール手順に進んでください。

Windows 3.1、Windows NT、Windows 95、または OS/2 Warp の場合

1 ThinkPad フォルダーを選択します。

2 ThinkPad 機能設定アイコンを選択します。

3 拡張ユニット () ボタンをクリックします。

4 表示されたシステム資源の情報について、すべての項目を入力します。説明が必要なときは、ヘルプ・ボタンをクリックします。

システム資源の割当て

ほとんどの場合、新しい装置を取り付けると ThinkPad が自動的にシステム資源を割り当てます。たとえば、PC カード・モデムを取り付けると、ThinkPad は *割り込み要求レベル (IRQ)* と入出力 (I/O) ポートを割り当てます。その他の装置には、*直接メモリー・アクセス (DMA)* やメモリーなどのシステム資源が必要な場合があります。システム資源にはそれぞれ最大値があり、たとえば ThinkPad での IRQ の最大値は 16 (0-15) です。

使用している ThinkPad で利用可能なシステム資源については、ThinkPad のオンライン・ブックまたはユーザーズ・ガイドを参照してください。

資源がすでに他の装置に割り振られているために、Windows 95 が資源を正しく割り振れない場合があります。このことは、システム資源の *競合* あるいは *コンテンション* と呼ばれます。このケースでは、以下のいずれかを使用してシステム資源を手作業で割り当てする必要があります。

Windows 95 のデバイス マネージャ

ThinkPad の *ThinkPad* 機能設定プログラム

システム資源を手作業で割り当てる前に、以下のことを行って現在使用可能なシステム資源を判別する必要があります。

- 1** マイ コンピュータ、コントロール パネル、およびシステムをダブルクリックして、次にデバイス マネージャ・タブをクリックします。現行装置がリストされます。
- 2** 装置リストの一番上のコンピュータ・アイコンをダブル・クリックすると、コンピューターのプロパティ画面が表示されます。
リソースの表示ウィンドウが現れて、現在使用可能な資源 (IRQ、I/O ポート、DMA およびメモリー) が表示されます。



- 3** マイ コンピュータ、コントロール パネル、およびシステムをダブルクリックして、次にデバイス マネージャ・タブをクリックします。Windows 95 のデバイス マネージャ・ウィンドウが表示されます。

競合の原因になっている装置のシンボルの隣に、シンボル “!” または “x” が現れます。



- 4** 装置 (この場合は **IBM Token-Ring Credit...**) を強調表示して、プロパティ、リソース・タブ、および 設定の変更 を順にクリックします。「競合している装置の一覧」ボックスが表示されます。



5 自動設定の使用のチェックマークを消します。

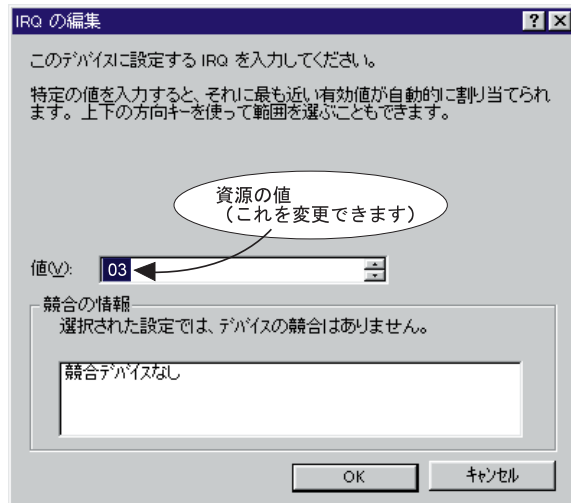
6 設定の登録名 ... の右方のボタンをクリックして、別の値を選択します。



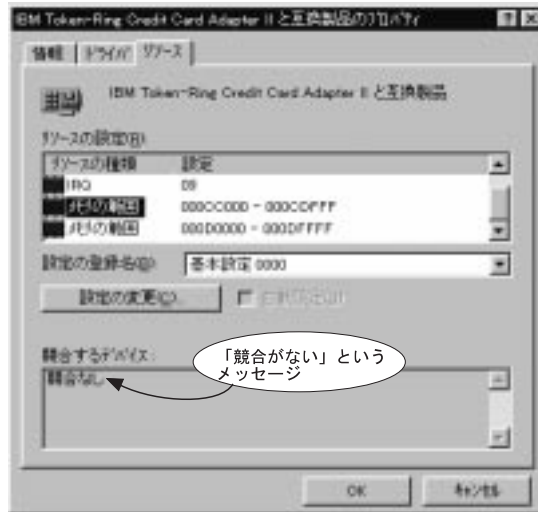
「競合している装置の一覧」ボックスにメッセージが表示されなくなったら、**OK** をクリックしてステップ 8 に進みます。

メッセージがまだ表示されている場合は、設定の変更をクリックして次のステップに進みます。

7 以下のウィンドウを編集して、競合している値を 1 つ 1 つ変更します。



- 8 競合している値がすべて訂正されると、「競合している装置の一覧」ボックスに競合なしと表示されます。



- 9 Windows 95 を再始動してからデバイス マネージャをもう一度オープンして、新しい装置が正しく動作していることを確認します。

装置がまだ始動できない場合は、以下のことを行います。

装置によっては、固定のメモリー範囲、固定の入出力ポート、または固定の IRQ レベルでのみ動作するものがあるので、装置に付属のマニュアルを調べます。マニュアルにこれらの制限が記載されていることがあります。

デバイス マネージャから装置を抹消して、再度取り付けます。

使用可能なシステム資源が残っていない可能性があります。たとえば、すべての IRQ 値がすでに使用済みの場合や、メモリーの空きがない場合などです。

装置の製造元に問い合わせます。

割り当てるシステム資源は、以下のとおりです。

IRQ (ハードウェア割り込み要求)

システムには IRQ が 16 ありますが、一部の IRQ はシステム用に予約されています。新しく取り付けられた装置には使用されていない IRQ を割り当てます。

DMA (直接メモリー・アクセス・チャンネル)

DMA は 0 から 7 まで 8 つあります。一部の DMA はシステム用に予約されています。この資源は、大量のデータを転送するための音声カードや SCSI アダプターなどのアダプターが通常使用します。

I/O アドレス

入出力 (I/O) アドレス空間の範囲は、X'0000' ~ X'FFFF' です。各機能の I/O ポートやアダプターの I/O ポートはこのアドレスにマッピングされます。

メモリー・アドレス

この領域は、BIOS ROM、またはメモリー・マッピングされたアダプターの I/O 領域用です。

IRQ とメモリー・アドレスは、もっとも競合を起こしやすい資源です。たとえば、セレクトドック III システムの ISA アダプター・カード (サウンド・プラスター・アダプターが代表的) が DMA チャンネル 1 を使用しているときは、ThinkPad のオーディオ機能 (DMA チャンネル 0 と 1 を使用) と競合を起こします。

資源の競合が起こらないように、必ず正しい値を選んで使用してください。資源の競合の解決方法については、3-11 ページの『システム資源の割り当て』を参照してください。

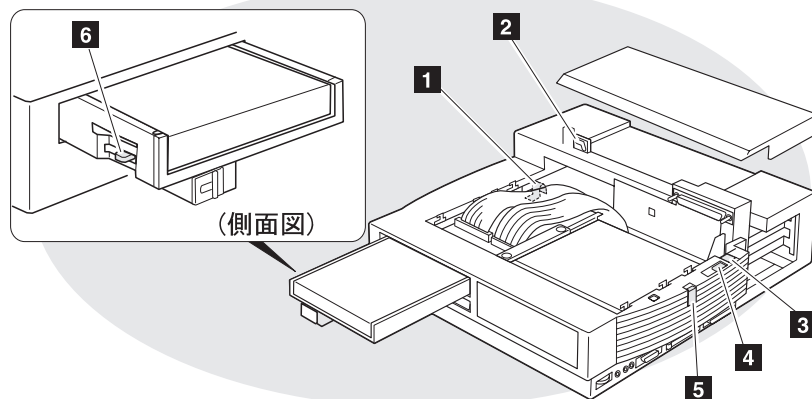
ハイライト

この章では、セレクトドック III システムの機密保護機能について説明します。マルチユーザー・ロックを使用すれば、複数のユーザーがセレクトドック III システムのハード・ディスクなどを共有しているときに簡単に機密保護を管理できます。

この章の内容:

セレクトドック III の機密保護機能	4-2
セレクトドック III システムの機密保護機能	4-3
PC カード・ロックと装置イジェクト・ロック	4-3
機密保護キー	4-3
ケーブル・ロック	4-3
マルチユーザー・ロック	4-4
セレクトドック III システムの共用時の管理	4-5
各ユーザーがパスワードを管理している場合	4-5
管理者がパスワードを管理している場合	4-6

セレクトドック III の機密保護機能



位置	保護する装置	使用方法
1 ウルトラベイ II のラッチ	ウルトラベイ II トレイ内の装置	このラッチは、ウルトラベイ II トレイが取り出せないようにします。トレイの保護を解除するには、このラッチを押して右回りに回転させます。
2 機械ロック穴	セレクトドック III システム	これは、ケーブル・ロックを取り付けるための穴です (詳細については、4-3ページの『ケーブル・ロック』を参照してください。)
3 マルチユーザー・ロック	セレクトドック III システム	このロックをケーブル・ロックとともに使用して、セレクトドック III システムを安全に共用できるようにします。
4 PC カード・ロック	PC カード	セレクトドック III に Docking する前にこのボタンを前方にスライドして、PC カード・イジェクト・ボタンを操作できないようにします。
5 セレクトドック III ベース・ロック	セレクトドック III ベース	セレクトドック III ベースを Docking した後、このボタンを上へスライドして、セレクトドック III ベースが取り出せないようにします。
6 装置イジェクト・ロック	ウルトラベイ II トレイ内の装置	ウルトラベイ II トレイに装置を取り付けた後、このボタンを後方にスライドして、トレイ内の装置を取り出せないようにします。

セレクトドック III システムの機密保護機能

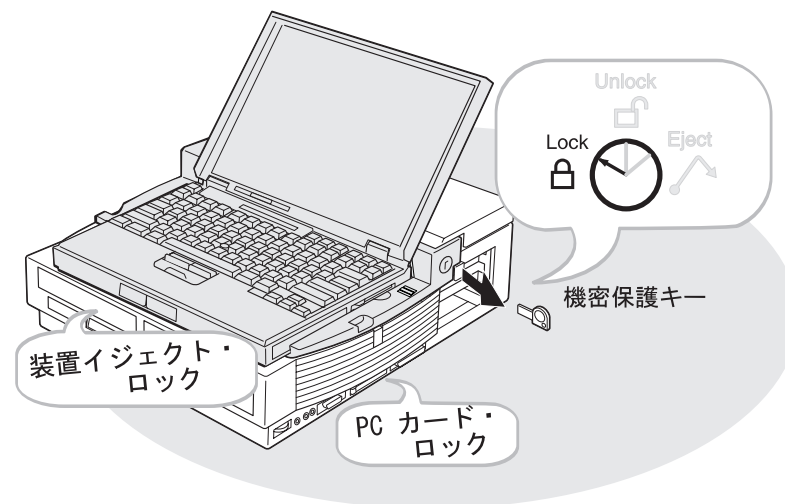
ここでは、セレクトドック III システム全体の機密保護機能について説明します。

PC カード・ロックと装置イジェクト・ロック

PC カードとウルトラベイ II トレイ内の装置を保護するには、セレクトドック III システムにセレクトベースを取り付ける前に、PC カード・ロックと装置イジェクト・ロックをロックします。

機密保護キー

セレクトドック III システムの中の ThinkPad を保護するには、機密保護キーをロック位置に回して、キーを抜きます。

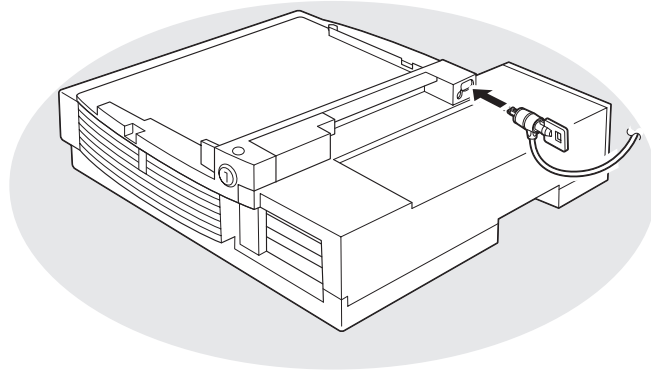


ケーブル・ロック

ケーブル・ロック・キーを差し込んで、ロック位置に回します。回したらキーを抜きます。これでセレクトドック III システムが保護されます。

注: ケーブル・ロックは、コンピューター販売店で購入できます。

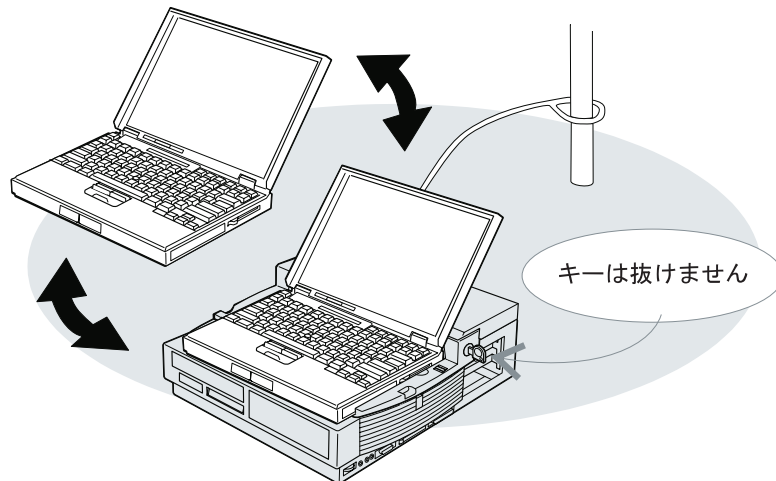
図に示されているようにケーブル・ロックを取り付けます。詳細については、ロックに付属の説明書を参照してください。



マルチユーザー・ロック

複数のユーザーがセレクトドック III システムを共用している場合は、マルチユーザー・ロックを使用します。この機能を使用する際には、セレクトドック III システム自体を保護するためにケーブル・ロックも取り付ける必要があります。

マルチユーザー・ロックをかけると、機密保護キーはロック解除位置に固定され、抜くことができなくなります。このため、セレクトドック III システムを共用している個々のユーザーに機密保護キーは不要です。各ユーザーは、キーを使わずに ThinkPad をドッキングしたりアンドッキングしたりすることができます。



セレクトドック III システムの共用時の管理

マルチユーザー・ロックを使用可能にすると、許可されているユーザーがセレクトドック III システムのハード・ディスク・ドライブのデータにアクセスでき、許可されている ThinkPad をセレクトドック III システムに取り付けることができます。

各ユーザーがパスワードを管理している場合

許可されているユーザー全員が、セレクトドック III システム内のハード・ディスク・パスワード (HDP) と、ThinkPad に対する各個人のパスワード (HDP または PAP) を知っています。

➡ 『各ユーザーがパスワードを管理している場合』

システム管理者がパスワードを管理している場合

システム管理者がセレクトドック III システムのハード・ディスク・パスワード (HDP) と許可されているすべての ThinkPad のパスワード (PAP) を設定し、ユーザーにはパスワードを知らせません。許可されているユーザーは、パスワードを知らなくてもセレクトドック III システムを使用できます。

➡ 4-6ページの『管理者がパスワードを管理している場合』

注:

HDP: ハード・ディスク・パスワード

PAP: 管理者パスワード

各ユーザーがパスワードを管理している場合

共用するセレクトドック III システムのハード・ディスクにパスワードを設定するには、以下のようにします。

- 1** 管理者は、以下のようにして共用するドライブに HDP を設定します。
 - a)** セレクトドック III システムから共用するハード・ディスクを取り外し、ThinkPad のいずれかに取り付けます。
 - b)** 共用するハード・ディスクに、ハード・ディスク・パスワードを設定します。

注: パスワードの設定方法については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドを参照してください。

c) 共用するハード・ディスク・ドライブをセレクトドック III システムに戻します。

d) 許可されているユーザーにパスワードを知らせます。

2 ユーザーが共用のセレクトドック III システムにドッキングした ThinkPad の電源を入れると、ThinkPad は HDP を入力するようにプロンプト指示します。ここでユーザーは正しいパスワードを入力する必要があります。

3 ユーザーは、自分の ThinkPad にインストールされているその他のハード・ディスク・ドライブに、独自のパスワードを設定できます。また、独自の管理者パスワードも設定できます。

管理者がパスワードを管理している場合

許可されているユーザーに対してパスワードを設定するには、以下のようになります。

注

この手順は、システム管理者のためのものです。管理者は共用のハード・ディスクに HDP を設定し、許可されているそれぞれの ThinkPad に PAP を設定します。

システム管理者は、管理者パスワードやハード・ディスク・パスワードをユーザーに知らせてはなりません。

1 セレクトドック III システムから共用するハード・ディスクを取り外し、ThinkPad のいずれかに取り付けます。

2 共用するハード・ディスクに HDP を設定します。

注: パスワードの設定方法については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドを参照してください。

3 ThinkPad から共用するハード・ディスクを取り外し、セレクトドック III システムに再度取り付けます。

4 許可されているそれぞれの ThinkPad ごとに管理者パスワードを設定します。

注: この PAP は、セレクトドック III システムの HDP と同じものにする必要があります。

これで、許可されているユーザーがセレクトドック III システムを使用できるようになりました。ユーザーは、ThinkPad をセレクトドック III システムにコールド・ドッキングします。ThinkPad の PAP がセレクトドック III システムの HDP と同じならば、ユーザーはパスワードを入力せずに、またパスワードを知らずに共用のハード・ディスクにアクセスできます。セレクトドック III システムの HDP と同じ PAP を持たない ThinkPad をドッキングしようとする、システムはパスワードを入力するようにプロンプト指示します。このパスワードを知っているのはシステム管理者だけなので、許可されていないユーザーはセレクトドック III システムのデータに決してアクセスできません。

— ハイライト —

ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングしたり、セレクトドック III システムからアンドッキングしたりすると、ThinkPad の環境や構成が変わります。ThinkPad を効率よく使用し、データの安全を確保するために、この章に示すいくつかの点で注意が必要です。


この章の内容:

ヒント	5-2
制限	5-6

ヒント

項目	ヒント
ドライブ名	<p>ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングした後に、セレクトドック III システムからアンドッキングした後は、ThinkPad とドッキング・システムに割り当てられているドライブ名が変わることがあります。このことにより、問題が起こることがあります。たとえば、アンドッキング状態では普通に動作するプログラムが、ドッキング後には動作しなくなる場合があります。</p> <p>ドライブ名が変わることによって起こる問題を防ぐには、以下の手順を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none">ドッキングした後、新しいドライブ名を確認する。セレクトドック III システムのハード・ディスク・ドライブ上に基本区画を作らない。ファイルをコピーしたり移動したりしたときは、元のドライブとコピー先または移動先のドライブを確認する。消去するファイルのあるドライブを確認する。フォーマットするドライブを確認する。プログラムのドライブ名がドッキングしたときとアンドッキングしたときとで変わる場合は、オペレーティング・システムのデスクトップにプログラムを登録しない。
複数構成がサポートされていない場合 (オペレーティング・システムによって異なる)	<p>オペレーティング・システムが、複数構成によるデバイス・ドライバーの選択をサポートしていない場合は、ドッキングしたときの構成で必要になるデバイス・ドライバーをすべて構成する必要があります。この場合、ThinkPad のアンドッキング後にオペレーティング・システムをブートすると、装置が使用不能であることを示すエラー・メッセージが現れます。</p>

項目	ヒント
OS/2 Warp のインストール	<p>セレクトドック SCSI コネクタに接続された SCSI CD-ROM ドライブから OS/2 Warp をインストールするには、以下の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オペレーティング・システムのディスク 1 のコピーを作成します。 <ol style="list-style-type: none"> a) ディスク 1 と空のディスクを、ドライブ A と B にそれぞれ挿入します。 b) コマンド・プロンプト画面で、次のコマンドを入力します。 <pre>diskcopy a: b:</pre> c) Enter を押します。 2 セレクトドック・オプション・ディスクから AIC7870.ADD をコピーしたディスク 1 のルート・ディレクトリにコピーします。ルート・ディレクトリは、ディスクの先頭のディレクトリです。AIC7870.ADD は、コピーしたディスク 1 に入っているデバイス・ドライバーのバージョンをすべて上書きします。 3 インストール・ディスクをドライブ A に挿入してシステムを再起動することにより、インストールを開始します。ディスク 1 を挿入するようにプロンプトで要求されたら、作成したコピーを挿入します。 4 OS/2 Warp ユーザーズ・ガイドの説明に従って、OS/2 Warp をインストールします。
Windows NT のインストール	Windows NT をインストールするには、該当する ThinkPad オンライン・ブックを参照してください。

項目	ヒント
<p>Windows 95 に付属する SCSI デバイス・ドライバーの使用</p>	<p>Windows 95 に付属する SCSI デバイス・ドライバーは、サスペンド機能とレジューム機能をサポートしません。このドライバーで SCSI 装置を使用する場合は、以下の手順に従ってサスペンドとハイバネーションを使用不能にする必要があります。</p> <p>1 ThinkPad 機能設定フォルダーをオープンし、拡張ユニット  ボタンをクリックします。</p> <p>2 ドッキング中にサスペンド/ハイバネーションする が選ばれている場合は、これを選択解除します。</p> <p>3 OK をクリックして、ThinkPad 機能設定プログラムをクローズします。</p>
<p>ソケット・サービスのパラメーター</p>	<p>セレクトアドック III システムの PC カード・スロットに入っている PC カードに付属する“ポイント・イネーブラー”を使用する場合は、ソケット・サービスのパラメーターとして IG0=Y でなく IG1=Y を使用します。</p>
<p>ゲーム・ポート用 I/O アドレス</p>	<p>ゲーム・ポート用 I/O アドレスは、アドレス X'0201' に割り当てられません。このアドレスは変更できません。</p>
<p>イーサネット・アダプター・カードの使用</p> <p>ドッキング・ステーションに以下のイーサネット・オプション・アダプター・カードのいずれかを取り付けて、ケーブルをデジiser・チェーン(シリアル接続)にして接続する場合</p> <p>3Com EtherLink III SMC EtherCard Elite Ultra LAN アダプター Novell NE2000plus ISA イーサネット・アダプター</p>	<p>以下のいずれかのアダプター・コネクターが必要です。</p> <p>AMP 社製部品番号 329517 HIROSE 社製部品番号 UG-306/U</p> <p>アダプター・コネクターをアダプター・カード・コネクターに接続します。次に、T 字型イーサネット・ケーブルをアダプター・コネクターに接続します。</p>

項目	ヒント
ThinkPad とセレクトドック III システムの電源装置	<p>ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングする際には、セレクトドック III システムに AC 電源コードを接続します。バッテリー・パックの電力だけでは、ドッキングしている ThinkPad を使用できません。</p> <p>注: セレクトドック III システムには電源スイッチはありません。ThinkPad の電源は、セレクトドック III システムにドッキングしているときも ThinkPad の電源スイッチで入れたり切ったりします。</p>
バッテリー・パックの充電	<p>セレクトドック III システムにドッキングしている ThinkPad の電源スイッチが入っていないときに、バッテリー・パックが充電されます。電源スイッチが入れてあるときは、ThinkPad の電力管理方法によって異なりますが、ThinkPad の消費電力が小さいときにだけ充電されます。</p>

制限

項目	制限
ディスク・ドライブの使用	<p>セレクトドック III システムは外付けと内蔵のどちらのディスク・ドライブもサポートできますが、一度に使用できるのはどちらか 1 つだけです。</p> <div data-bbox="503 513 1289 644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">重要</p><p>ディスク・ドライブを 2 台接続して両方を使用すると、両方のディスクにあるデータが失われるおそれがあります。</p></div>
ISA アダプター・カードまたは PCI アダプター・カードの使用	<p>ISA アダプター・カードまたは PCI アダプター・カードを購入する際には、カードの互換性に注意します。</p> <p>セレクトドック III システムは、ThinkPad が取り付けられているときに ISA バスの REFRESH 信号をサポートしません。このため、以下の ISA アダプター・カードはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none">IBM-Multi Port Card (部品番号 00F5529)IBM-Multi Port 2 Card (部品番号 33F8791)DRAM メモリー・カードバスが使用されているかどうかを判定するために REFRESH 信号を使用する ISA カードクロック・カウンターとして REFRESH 信号を使用する ISA カード

項目	制限
サスペンド機能とレジューム機能	<p>ThinkPad 760 または 765 をセレクトドック III システムにドッキングする場合、サスペンド機能とレジューム機能はサポートされません。</p> <p>DOS または Windows 3.1 を使用している場合は、ASPI8IBM.SYS (SCSI) ドライバーをロードするとサスペンド機能とレジューム機能はサポートされません。</p> <p>Windows 95 を使用している場合は、Windows 95 が AIC-7860 (SCSI) ドライバーをロードし、デバイス・マネージャーがこのドライバを使用可能にしているとき (チェックボックスが選択されている) は、サスペンド機能とレジューム機能はサポートされません。</p> <p>アダプター・カードまたは PC カードがカード・スロットに取り付けられている場合は、サスペンド機能とレジューム機能はサポートされません。</p>
I/O 資源の割振り	<p>ThinkPad 760EL をドッキングしたセレクトドック III システムに取り付けられているアダプター・カードに、I/O 資源 X'330' ~ X'333' を割り振る場合は、ThinkPad 機能設定プログラムを使用して ESS 機能 (オーディオ) を使用不可にする必要があります。</p>

— トラブルシューティングの手順 —

システムのトラブルシューティングは、以下の手順で行います。

1. 警告インジケータの表示の意味を判別する。
2. 問題を起こしている装置を判別する。
3. トラブルシューティング・ガイドを使用してシステムを回復する。
4. 必要に応じてテストを実行する。
5. 修理を依頼する。

この章の内容:

警告インジケータ	6-3
問題を起こしている装置の判別	6-5
ThinkPad の検査	6-7
ThinkPad とセレクトベースの組合せの検査	6-8
セレクトドック III システムの検査	6-8
トラブルシューティング・ガイド	6-10
目で発見できる問題	6-11
セットアップの問題	6-13
始動時の問題	6-14
PC カードの問題	6-14
ウルトラベイ II 装置の問題	6-15
装置スペースの問題	6-16
SCSI 装置の問題	6-17
オーディオの問題	6-18
サウンド・ブラスターの問題	6-18
MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ポートの問題	6-19
アダプターの問題	6-19
USB ポートの問題	6-20
Wake on LAN の問題	6-21
再現できない問題	6-21
資源の競合の問題	6-22
テストの実行	6-23
内蔵ドライブのテスト	6-23
SCSI サブシステム・テスト	6-24
テストでエラーが検出されなかった場合	6-24

重要

この章は、セレクトドック III システムが原因になっている問題についてだけ使用します。セレクトドック III システム以外の製品が原因になっている問題については、その製品の説明書を参照してください。

この章のテストは、**IBM** 製品のテストにだけお使いください。IBM 製品以外の製品をテストすると、正しくないエラー情報が表示されたり、ThinkPad が正しくない応答をすることがあります。それらの製品のテストは、製品に付属の説明書に従って行ってください。

セレクトドック III システムに原因のない問題は、すべて該当製品に付属の説明書に従って分析してください。このマニュアルでは、セレクトドック III システムに固有の問題、つまりセレクトドック III システムを使用したときにだけ起こる問題を説明しています。

このガイドで推奨している処置をすべて実行しても問題が解決しない場合は、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。

警告インジケータ

セレクトドック III システムは、警告インジケータとピープ音の組合せによって、ユーザーに正しくないドッキングまたはアンドッキング操作について注意を促します。

警告インジケータは、ウルトラベイ II に正しくないドライブが取り付けられたときも点灯します。

次の表に、警告インジケータが点灯または点滅しているときの対処方法がまとめてあります。

警告	原因	対処方法
ピープ音が鳴り、インジケータが点灯している。	<ol style="list-style-type: none">1. ウルトラベイ II コネクタに、サポートされていない装置が取り付けられている。または PCI バスを持たない ThinkPad がドッキングしている。2. IDE ドライブが 3 台以上セレクトドック III システムに取り付けられている。3. 外付けの AC/DC アダプターがセクタベースまたは ThinkPad に接続されている。	<ol style="list-style-type: none">1. ウルトラベイ II 内の装置が正しく取り付けられているか、またはこのベイに適合した装置であるかを確認する。もしくは ThinkPad をアンドッキングする。ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad はサポートされない。2. 余分な IDE ドライブをセレクトドック III システムから取り外す。一度に使用できる IDE ドライブは 2 台だけである。3. ThinkPad をアンドッキングして、セクタベースから外付け AC/DC アダプターのケーブルを抜く。

警告	原因	対処方法
<p>ビープ音が鳴り、警告インジケータが点滅する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ThinkPad がセレクトドック III システムを使用しているときにイジェクトの操作が行われた（機密保護キーがイジェクトの位置に回された）。（これは、DOS または Windows 3.1 のユーザーがビープ音機能をオンにしているときだけ当てはまる。） 2. ThinkPad が動作中またはサスペンド状態のときに、ウルトラベイ II 内の装置をイジェクトしようとした。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. セレクトドック III システムに取り付けられているハード・ディスク・ドライブ上のプログラムなどのアプリケーション・プログラムをクローズした後で、再度イジェクトしてみる。 2. ウルトラベイ II トレイのイジェクト・レバーをロックの位置に戻す。
<p>ビープ音が 2 回鳴り、インジケータが 1 回点滅する。</p>	<p>ホット・アンドockingまたはウォーム・アンドockingが正常に実行され、ThinkPad がイジェクトできる状態である。</p>	<p>ThinkPad をセレクトドック III システムからイジェクトする。</p>

ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad 用コネクタと PCI バス・アーキテクチャーの ThinkPad 用コネクタの形状寸法は同じであるため、正しくない ThinkPad がドッキングされる可能性があります。このような問題に対して ThinkPad とセレクトドック III システムを保護するために、セレクトドック III システムの警告インジケータとビープ音が警告して知らせます。次の表に、ISA バス・アーキテクチャーの ThinkPad をドッキングしたときのセレクトドック III システムの反応と、ユーザーが行う対策がまとめられています。

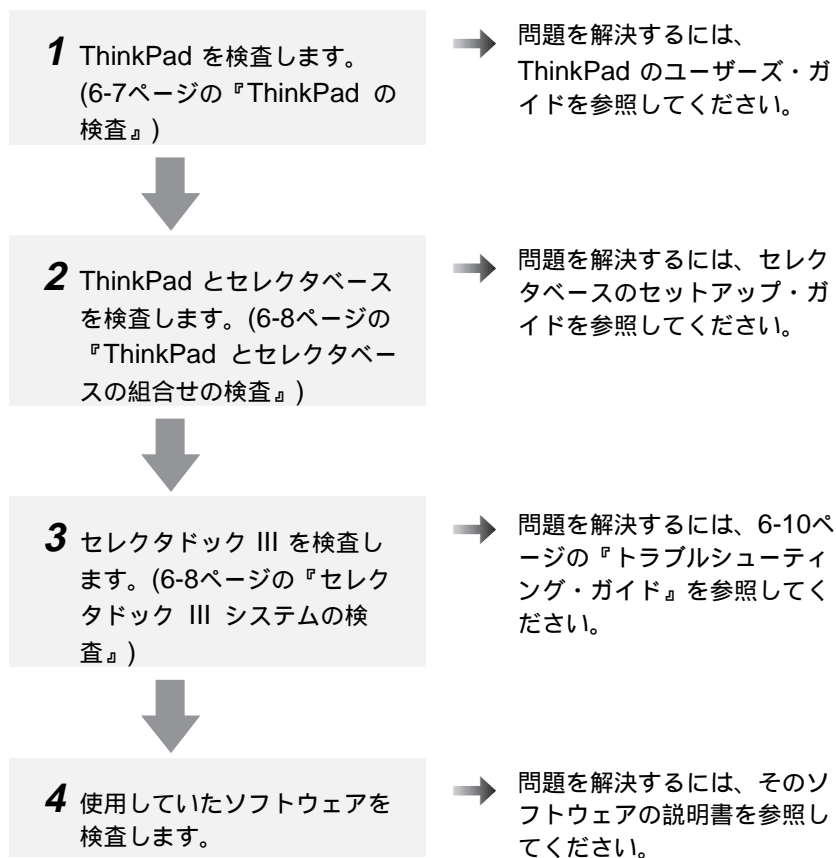
ThinkPad の状態 (ISA バス)	セレクトドック III システムの反応	対策
電源が入り実行中	ThinkPad の電源が即時切られる。 警告インジケータが点灯し、正しくない ThinkPad がドッキングしたことを知らせる。	ThinkPad をアンドッキングする。 アンドッキングすると警告インジケータが消える。
スタンバイ状態		
サスペンド状態		
ハイバーネーション状態	警告インジケータが点灯し、正しくない ThinkPad がドッキングしたことを知らせる。	
電源が切っている		

問題を起こしている装置の判別

問題を単純化するために、以下の装置のどれが問題を引き起こしているかを判別します。

ThinkPad
ThinkPad とセレクトベースの組合せ
セレクトドック III システム

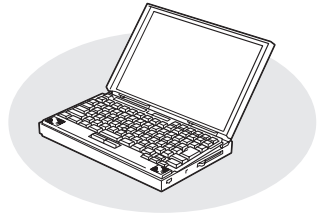
以下の手順によって、どれが問題を起こしているかを判別します。



問題を起こしている部分が、ハードウェアの損傷などのように明確な場合は、6-10ページの『トラブルシューティング・ガイド』に進んでください。

注: エラー・メッセージをすべて記録し、サービスが必要なときにサービス技術員にお知らせくださるようご協力お願いします。

ThinkPad の検査



ThinkPad が正常に動作するかどうか検査します。ThinkPad をセレクトドック III システムからアンドッキングした後に、ThinkPad だけで障害を起こした同じジョブを試行します。

注: ThinkPad だけでは同じジョブを実行できない場合は、『ThinkPad のテスト』に進みます。

- 1** ThinkPad の電源を切ってから、アンドッキングします。
- 2** 必要な外付け装置すべてを、ThinkPad に直接取り付けます。
- 3** ThinkPad だけで同じジョブを実行します。

同じ問題が起きましたか？

はい 次のものに原因があると考えられます。

ThinkPad
外付け装置
ThinkPad と外付け装置を接続するケーブル
設定、操作、またはソフトウェア

ThinkPad のユーザーズ・ガイドを読んで、問題をさらに分析してください。

いいえ ThinkPad がドッキングしているときにだけ問題が起きます。手順 6-8ページの『ThinkPad とセレクトベースの組合せの検査』に進みます。

ThinkPad のテスト

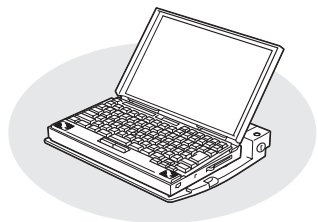
ThinkPad だけでは同じジョブを実行できない場合は、システム診断プログラムを実行します。

エラーが返されましたか？

はい ThinkPad に原因があると考えられます。ThinkPad のユーザーズ・ガイドを参照してください。

いいえ ThinkPad がドッキングしているときにだけ問題が起きます。次に進みます。

ThinkPad とセレクトベースの組合せの検査



ThinkPad がセレクトベースにドッキングしているときに正しく動作するかどうか検査します。ThinkPad をセレクトベースにドッキングしてから、ThinkPad で同じジョブを実行します。

問題が起こったときのジョブを実行できない場合は、次の節に進んでください。

1 ThinkPad をセレクトベースにドッキングし、外付け装置をすべてセレクトベースに再接続します。

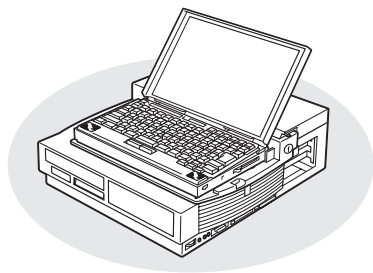
2 同じジョブを実行します。

同じ問題が起こりましたか？

はい セレクトベースに原因があります。セレクトベースのセットアップ・ガイドを読んで、問題を解決してください。

いいえ 次に進みます。

セレクトドック III システムの検査



ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングして使用しているときにだけ問題が起こります。

1 セレクトベースと ThinkPad をセレクトドック III にドッキングします。次に、AC 電源コードをセレクトドック III に接続します。ただしまだ電源は入れないでください。

セレクトドック III パネルのドッキング・インジケータが点灯しましたか？

はい セレクトドック III は、ThinkPad がドッキングしたことを認識しました。次の手順に進んでください。

いいえ ThinkPad が正しくドッキングされていません。6-13ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

2 外付け装置の電源を入れ、次に ThinkPad の電源を入れます。

注: 電源を入れる順序は重要です。ThinkPad が POST (電源オン自己テスト) を行うときに、これらの装置に電源が入っていて作動可能であることをチェックするからです。

セレクトドック III システムの警告インジケーターが点灯または点滅しましたか?

はい ドッキングが正しく行われていません。6-13ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

いいえ 次の質問に進みます。

セレクトドック III システムの電源インジケーターが点灯しましたか?

はい 次の質問に進みます。

いいえ 6-13ページの『セットアップの問題』に進んで問題を解決してください。

ブートが正常に終了しましたか?

はい 6-10ページの『トラブルシューティング・ガイド』に進んでください。

いいえ 6-14ページの『始動時の問題』に進んで問題を解決してください。

トラブルシューティング・ガイド

問題の症状を調べ、示されている該当するページに進んでください。

トラブルシューティング表	ページ
目で発見できる問題	6-11
セットアップの問題	6-13
始動時の問題	6-14
PC カードの問題	6-14
ウルトラベイ II 装置の問題	6-15
ドライブ・スペースの問題	6-16
SCSI ドライブの問題	6-17
オーディオの問題	6-18
サウンド・ブラスターの問題	6-18
MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ポートの問題	6-19
アダプターの問題	6-19
USB ポートの問題	6-20
Wake on LAN の問題	6-21
再現できない問題	6-21
資源の競合の問題	6-22
その他の問題	6-23

注: セレクタドック III システムに取り付けたり接続したりしたすべての装置について、診断テスト・プログラムを実行します。

目で発見できる問題

症状	対処方法
カバーなどのハードウェアが破損している。	ハードウェアが破損しているときは、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。誤った使用方法が原因で問題が起きたときに負担していただく修理費用については、保証書の説明をご覧ください。
ThinkPad をアンドッキングできない。	ThinkPad の電源を切ってから、セレクトドック III システムからアンドッキングします。セレクトドック III システムに電源が投入されていないときは、手動でアンドッキングできます。アンドッキングできないときは、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。
警告インジケータが点灯または点滅している。	<p>システムは、機密保護機能を使用して不正なドッキングやアンドッキングを検出して、それ以上の問題が起こるのを防ぎます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ドッキングされている ThinkPad がサポートされるモデルであることを確認します。ThinkPad は PCI バス・アーキテクチャーを使用しているモデルでなければなりません。使用されているアーキテクチャーが不明のときは、ユーザーズ・ガイドをご覧ください。次の ThinkPad のモデルがサポートされています。 760E、760ED、760EL、760XD、および 760XL 765D 770 機密保護キーをイジェクトの位置に回したときにこのインジケータが点灯する場合は、ThinkPad がアンドッキングされていると異常終了するようなタスクを ThinkPad が実行していないかどうか検査します。 ウルトラベイ II にドライブを取り付けたときにこのインジケータが点灯する場合は、そのドライブがセレクトドック III システムでサポートされているものであるかどうか確認します。 IDE 装置が 3 台以上取り付けられていないかどうか確認します。 AC/DC ケーブルがセクタベース・ポート・リプリケータに接続されていないことを確認します。
機密保護ロック・キーが紛失した。または予備のキーが必要になった。	➡ 発注方法については、セクタベースのセットアップ・ガイドを参照してください。

症状	対処方法
ThinkPad がドッキング時にサスペンドまたはレジュームできない。	カード・スロットにアダプター・カードが挿入されていないかどうかチェックします。カードが挿入された状態では、サスペンドやレジューム機能は使用できません。
ThinkPad 機能設定プログラムと PC Card Director を更新した後、システムをリブートすると Battchk などのエラー・メッセージ・ウィンドウが現れる。	Battery Check Utility をインストールしましたか？ していない場合は、プログラムをインストールします (プログラム導入ガイドを参照)。

セットアップの問題

症状	対処方法
ドッキング・インジケータ ーが点灯しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源コードが、定格の電源が供給されているコンセントとセレクトドック III システムに正しく挿入されている。 2. ThinkPad が正しくドッキングされている。ドッキング操作をやり直してください。 <p>注: セレクトドック III システムにドッキングするには、ThinkPad の電源を切ってください。</p>
電源インジケータ ーが点灯しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドッキング・インジケータ ーが点灯している。点灯していないときは、“ドッキング・インジケータ ーが点灯しない” 症状の対処方法を実行してください。 2. 警告インジケータ ーが点灯していない。点灯または点滅しているときは、6-11ページの『目で発見できる問題』の対処方法を実行してください。 3. ThinkPad の電源スイッチが正しく機能している。 4. 電流が最大限度を超えない。
警告インジケータ ーが点灯ま たは点滅している。	<p>→6-11ページの『目で発見できる問題』。</p>
その他のインジケータ ーが正 常に点灯または点滅しない。	<p>その他のインジケータ ーが正常に点灯または点滅しない場合は、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。</p>
ThinkPad をアンドッキング できない。	<p>→6-11ページの『目で発見できる問題』。</p>

始動時の問題

症状	対処方法
ドッキングするとオペレーティング・システムが始動しない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. ブートに使用する装置の電源が入っていて作動可能になっている。ドライブに電源が直接接続されているときは、ドライブの電源を入れてから ThinkPad の電源を入れます。2. ブートに使用する装置に対応する正しいドライブ名が起動プログラム内で使用されている。ドッキングするとドライブ名が自動的に変わることがあります。3. 装置診断プログラムを実行したときに、ドライブに異常がない。 → 詳細については、6-23ページの『テストの実行』。4. ThinkPad をドッキングしたときにコンピューター資源の割当てが競合していない。 → 資源が競合していると考えられる場合は、6-22ページの『資源の競合の問題』。

PC カードの問題

症状	対処方法
取り付けてある PC カードが使用できない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. PC カードが正しく取り付けてある。 → 2-16ページの『PC カードの取付け』。2. PC カードを ThinkPad に直接取り付けたときは使用できる。使用できないときは、ThinkPad のユーザズ・ガイドの問題判別ガイドに従って問題をさらに分析してください。3. コンピューター資源の割当てとデバイス・ドライバーのインストールが正しく行われ、PC カードが正しくセットアップされている。 PCMCIA スロット用の診断テスト・プログラムを実行してください。 → 6-23ページの『テストの実行』。

ウルトラベイ II 装置の問題

症状	対処方法
ウルトラベイ II の CD-ROM ドライブ、DVD ドライブ、またはディスク・ドライブが作動しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ドライブがウルトラベイ II コネクターにしっかり接続されている。ドライブを取り外して、取り付け直します。 →2-6ページの『ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け』2. ドライブを ThinkPad のウルトラベイ II に取り付けると正しく作動する。3. ドライブのテストを行うと正しく作動する。 →6-23ページの『テストの実行』。4. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。5. 装置スペース内の装置も含め、取り付けられている IDE 装置は 2 台以下である。
ウルトラベイ II のハード・ディスクが作動しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ドライブがウルトラベイ II コネクターにしっかりと接続されている。ドライブを取り外して、取り付け直します。 →2-6ページの『ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け』2. ドライブを ThinkPad のウルトラベイ II に取り付けると正しく作動する。3. ドライブのテストを行うと正しく作動する。 →6-23ページの『テストの実行』。4. ハード・ディスクのパスワードが正しく設定されている。→パスワードの設定方法については、ThinkPad のユーザーズ・ガイド。

装置スペースの問題

症状	対処方法
装置スペースの IDE 装置が作動しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 装置が装置スペース・コネクタにしっかり接続されている。装置を取り外して、取り付け直します。2. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。3. ウルトラベイ II トレイ内の装置も含め、取り付けられている IDE 装置は 2 台以下である。4. IDE 2/IDE 3 が使用可能になっている。5. モード選択が正しく設定されている。
装置スペースの SCSI ドライブが作動しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 装置が装置スペース・コネクタにしっかり接続されている。装置を取り外して、取り付け直します。2. 装置を取り付けたときに、コンピューター資源の割当て、デバイス・ドライバのインストール、およびその他のセットアップが正しく行われている。3. ターミネーターが使用不可になっている。 <p>テストを実行します →6-24ページの『SCSI サブシステム・テスト』。</p>

SCSI 装置の問題

症状	対処方法
SCSI ドライブが作動しない。	<p>SCSI バスに接続されている SCSI ドライブ (たとえば、CD-ROM ドライブやハード・ディスク・ドライブ) が見つからないというエラー・メッセージが表示されたときは、まず次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ThinkPad がドッキングしていること。 2. SCSI バス上のすべての装置にターミネーションが正しく設定されていること。 3. 外付け SCSI ドライブ、内蔵 SCSI ドライブおよびホスト・アダプターを接続するケーブルがしっかりと接続されていること。内部ケーブルに対して Pin-1 の方向が正しいことを確認する。接続がすべて問題ないことを確認し、また可能性のあるその他の問題を解決してもまだ問題が解消しないときは、ケーブルを取り換えてみてください。 4. CD-ROM ドライブやその他の SCSI ドライブが電源に接続され、電源が入っていること。 <p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての SCSI ドライブが動作しない場合 <ol style="list-style-type: none"> a) 外付け SCSI ドライブの場合は、最後の装置に SCSI ターミネーターが正しく取り付けられていることを確認します。 b) SCSI ドライブのドライバーが正しくインストールされていることを確認します。 → A-2ページの『EZ-SCSI のインストール』 c) テストを実行します → 6-24ページの『SCSI サブシステム・テスト』。 d) 問題のないことが分かっているドライブがあれば、その良好なドライブだけを SCSI コネクタに取り付けて、確認のためにテストを行います。ドライブがエラーを起こさずに作動した場合は、セレクトドック III システムの SCSI コントローラーは正常です。ドライブのいずれかに問題があると考えられます。 2. デイジー・チェーンの 1 台のドライブだけが使用できない場合 <ol style="list-style-type: none"> a) ドライブのテストを行い結果を確認します。テスト・プログラムのメッセージに従ってテストを進めます。 b) SCSI の設定が正しいことを確認します。 → A-2ページの『EZ-SCSI のインストール』

症状	対処方法
システムが SCSI ドライブからブートできない。	SCSI ドライブからのブートはサポートされていません。

オーディオの問題

症状	対処方法
オーディオ装置が使用できない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーディオ装置を ThinkPad に直接接続すると使用できる。 2. オーディオ装置がこの製品でサポートされている。 → B-1ページの付録B, 『製品仕様』 3. セレクトドック III システムに取り付けた CD-ROM からのオーディオだけが使用できないときは、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。 <p>テストを実行します → 6-23ページの『内蔵ドライブのテスト』。</p>

サウンド・ブラスターの問題

症状	対処方法
サウンド・ブラスターまたはこれと互換性のあるアダプター・カードが使用できない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MIDI/ジョイスティック・ポートが、ThinkPad 機能設定プログラムによって使用不能になっている。 2. ThinkPad のゲーム・ポートも使用不能になっている。 → ThinkPad のユーザーズ・ガイド。

MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ポートの問題

症状	対処方法
ゲーム・ポートが使用できない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad 機能設定プログラムによって、ゲーム・ポートのスイッチが Enable に設定されている。 詳細については、➡2-18ページの『MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方』。2. MIDI を使用しているときにだけ問題が起こるときは、ThinkPad が MIDI ポートをサポートしているかどうか。

アダプターの問題

症状	対処方法
アダプターが使用できない。	次のことを確認してください。 <ol style="list-style-type: none">1. アダプターがセレクトアドック III システムのアダプターのスロットに適合するように設計されている。2. 2-13ページの『PCI アダプター・カードまたは ISA アダプター・カードの取付け』の取付け手順がすべて実行されている。3. アダプター・カードがプラグ・アンド・プレイでないアダプターの場合は、システム資源がユーティリティー・プログラムによって正しく割り当てられているか。4. ドライバー・ディスクが最新のものである。ドライバーの製造元にお問い合わせください。付属のディスクが旧式のデスクトップ・コンピューターしかサポートしない場合があります。 <p>アダプターに付属の説明書に従って、問題をさらに分析してください。</p>

USB ポートの問題

症状	対処方法
接続した USB 装置が作動しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. USB 装置が正しく接続されている。2. USB 装置が ThinkPad に正しくインストールされている。されていない場合は、まず ThinkPad のユーザーズ・ガイドのトラブルシューティングの項を参照してください。3. コンピューター資源の割当てやデバイス・ドライバのインストールなど、USB 装置の設定が正しい。 <p>資源の競合を調べるには、「システムのプロパティ」ウィンドウをオープンします。</p> <p>注: このウィンドウをオープンするには、マイ コンピュータ、コントロール パネル、およびシステムを順次ダブルクリックして、デバイス マネージャ・タブをクリックします。</p> <p>USB ポートの診断テストを実行してください。</p> <p>➡6-23ページの『内蔵ドライブのテスト』</p>

Wake on LAN の問題

症状	対処方法
Wake on LAN アダプターをインストールして使用していても、システムが Wake on しない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. コンピューターのタイプが正しい。この機能をサポートしているのは ThinkPad 770 だけです。2. セレクタドック III システムのスロットの LAN アダプター・カードが Wake on LAN 機能をサポートしている。3. LAN ケーブルが LAN アダプターに接続されている。4. LAN カード用電源ケーブルと Wake on LAN コードの両方が、Wake on 操作に使用している LAN アダプターに接続されている。5. AC 電源が供給されている。 <p>Wake on 機能を使用するには、セレクタドック III システムおよび ThinkPad に AC 電源が供給されている必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none">6. Wake on 機能が使用可能になっている。

再現できない問題

症状	対処方法
再現できない問題が起こる。	<p>再現性がないので分析は困難です。このような問題がセレクタドック III システムで起こるときは、次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad がセレクタドック III システムにしっかり接続されている。2. すべてのケーブルと電源コードが、セレクタドック III システムとそのオプションにしっかり接続されている。3. SCSI ドライブが正しく終端されている。 <p>以上のことを確認しても問題が解決しないときは、問題の症状と、問題が起こったときに実行していた処理をメモし、お買い求めの販売店がサービス技術員にご連絡ください。</p>

資源の競合の問題

症状	対処方法
<p>ThinkPad をドッキングしたときに、構成した装置に割り当てたコンピューター資源が重複している可能性がある。または重複していることが明らかである。すなわち、2 つ以上の機能やアダプターが、同一の IRQ、DMA、I/O アドレス、またはメモリー・アドレスを使用している。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 可能な場合は、資源が重複しているアダプター、PC カード、または ThinkPad 機能の設定を変更して、問題が解決するかどうか調べます。 すでに設定されている構成を変更しないですむように、まず新しく取り付けしたアダプターの設定が変更できるか調べます。新しく取り付けしたアダプターやカードの設定が変更できないときにだけ、ThinkPad 機能と今まで使用していたアダプターやカードの設定を変更します。(今まで使用していたハードウェアの設定を変更したときは、対応するソフトウェア・ドライバの設定も変更が必要になることがあります。)詳細は、該当するソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。2. 重複を起こさない組合せができないときは、ThinkPad の装置をいくつか使用不能にして重複の問題が解決するか調べます。 たとえば、サウンド・ブラスター・アダプターが使用できるようにするには、ThinkPad のオーディオ装置を使用不能にして、DMA チャンネル 1 を開放する必要があるかもしれません。 重複の問題を起こさない組合せを作るために、3 つ以上のアダプターや ThinkPad の装置の選択の変更が必要になることもあります。

注: 問題がコンピューター資源の重複によって起こっているとは考えられないときは、以下の順に処置を行ってください。

1. ユーザーズ・ガイドを参照して、装置の取付け方法を確認する。
2. アダプターのマニュアルを参照して、ソフトウェア・ドライバのインストールが正しく行われているか確認する。
3. アダプター、コネクター、およびケーブルがしっかり取り付けられ接続されているか確認する。
4. 購入した販売店に問い合わせる。
5. アダプターが IBM 製のものでないときは、そのアダプターのメーカーに問い合わせる。
6. IBM サービス・センターに問い合わせる。

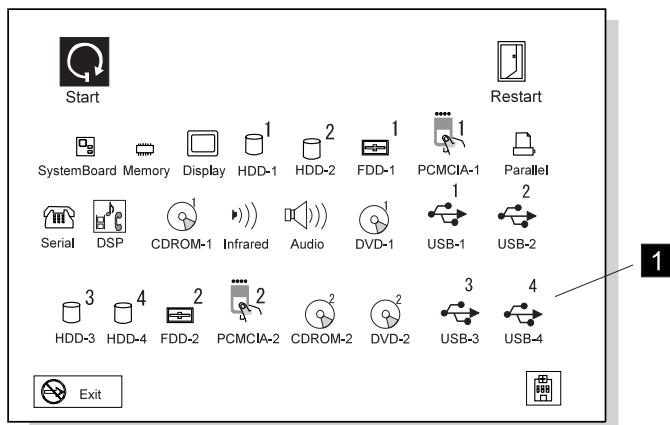
テストの実行

内蔵装置用の診断テスト・プログラムは、ThinkPad の Easy-Setup プログラムに含まれています。

内蔵ドライブのテスト

ThinkPad の Easy-Setup テスト・プログラムは、セレクトアドック III システムに内蔵されている装置をテストするために使用します。ここでは、セレクトアドック III システムに内蔵されている装置の選択方法を説明します。テストの起動方法とテスト結果の説明については、ThinkPad のユーザーズ・ガイドをご覧ください。

次の図は、テスト装置選択メニューの一例です。セレクトアドック III システムの装置は長方形ボックス 1 で囲まれています。



セレクトアドック III システムでテスト可能な装置は次のものです。

- ウルトラベイまたはウルトラベイ II のハード・ディスク
- ウルトラベイまたはウルトラベイ II のディスクット・ドライブ
- PCMCIA スロット
- ウルトラベイまたはウルトラベイ II の CD-ROM ドライブ
- ウルトラベイ II の DVD
- USB ポート

エラーが発見されると、画面の中の装置アイコンの近くにエラー・コードが表示されます。エラー・コードの意味は、ThinkPad のユーザーズ・ガイドに説明されています。

エラーがドライブ自体にあるかセレクトドック III システムにあるかを判断するには、ドライブを取り外して ThinkPad に直接取り付け直し、そのドライブで同じテストを行います。エラーが再発するときは、そのドライブに問題があり修理が必要です。エラーが再発しないときは、セレクトドック III システムに問題があります。その場合は、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。

SCSI サブシステム・テスト

セレクトドック III ドッキング・システム・オプション・ディスクットのメニューを使用して、拡張ユニット、SCSI アダプター、および SCSI 装置の問題を判別できます。

これらの装置が正しく作動することを確認するには、セレクトドック III システムに SCSI ドライブを取り付け終わった後に診断を実行します。以下の手順を実行してください。

1. ThinkPad、セレクトドック III システム、および外付け SCSI ドライブの電源を切ります。
2. オプション・ディスクットを ThinkPad のディスクット・ドライブ (ドライブ A) に挿入します。
3. 接続されているすべての外付け SCSI ドライブ、ThinkPad、およびセレクトドック III システムの電源を入れます。ロゴ画面が表示されません。数秒でメイン・メニューが表示されます。
4. **Test SCSI Subsystem** を選びます。
5. 画面の指示に従います。

テストでエラーが検出されなかった場合

テストでエラーが検出されなかった場合は、システムに診断テストで検出できない問題がある可能性があります。この場合、通常は ThinkPad や、セレクトドック III システムに取り付けられている装置などのハードウェア構成要素には、問題の原因はありません。原因としては、ソフトウェアのエラー、セットアップのエラー、構成の問題、サポートされていない使い方、データ・メディアの問題、または再現できないハードウェアの問題が考えられます。

システムの問題を解決できないときは、セレクトドック III システムの修理を依頼してください。

修理の依頼

重要

修理を依頼する際には、必要に応じて ThinkPad と機密保護キーを付けたセレクトドック III システムの両方をお送りください。

注: 保証期間中でも、製品の使用方法の誤り、事故、製品の変更、不適切な物理的環境または操作環境での使用、または不適切な保守のために起こった損傷については、修理費が有料になることがあります。

セレクトドック III システムの保証サービスに関するお問い合わせは、IBM サービス・センターにお願いします。

修理を依頼する前に、セレクトドック III システムに問題があることを確認してください。6-5ページの『問題を起こしている装置の判別』をご覧ください。

迅速に、またスムーズに修理ができるように、次のような情報をできるだけ多くお知らせください。

エラー・メッセージ

エラー・コード

エラーに再現性があるかないか

また、どのようにしたら問題が起こるか、エラーが起こらないときにはシステムはどのように作動するかなどの情報も修理に役立ちます。

下記に、連絡先の電話番号を記入しておいてください。

付録A. SCSI ソフトウェアを使用する

ハイライト

Adaptec EZ-SCSI は、セレクトドック III システムに取り付けた SCSI 装置を構成します。このプログラムは SCSI 構成を分析し、ハード・ディスクにアプリケーションとデバイス・ドライバをコピーし、構成ファイルを自動的に調整します。EZ-SCSI をインストールすると、ThinkPad ですべての SCSI 機能がすぐに使用できるようになります。

この付録の内容

EZ-SCSI のインストール	A-2
Windows 用 EZ-SCSI のインストール	A-3
DOS 用 EZ-SCSI のインストール	A-4
オンライン情報	A-5
フォーマット・ユーティリティー	A-6
SCSIFMT の実行	A-8
AFDISK の実行	A-11

EZ-SCSI のインストール

EZ-SCSI を使用すれば、Adaptec SCSI デバイス・ドライバーと、ASPI (拡張 SCSI プログラミング・インターフェース) マネージャーにアクセスして、SCSI 装置を効率的に使用できます。

ここでは、Windows および DOS 用の EZ-SCSI のインストール方法を説明します。

セレクトドック・オプション・ディスクには、DOS 用バージョンと Windows 用バージョンの両方のプログラムが入っています。

ThinkPad に Microsoft Windows 3.1 がインストールされている場合

→ A-3ページの『Windows 用 EZ-SCSI のインストール』。

システムが DOS を使用しており、Windows は使用していない場合

→ A-4ページの『DOS 用 EZ-SCSI のインストール』。

注:

1. DOS または Windows 以外のオペレーティング・システムを使用している場合は、Adaptec AHA-2940AU アダプター用のドライバーをインストールしてください。
2. セレクトドック・オプション・ディスクのファイルは圧縮されています。DOS COPY コマンドを使用して、これらのファイルを ThinkPad にインストールしないでください。(EZ-SCSI をインストールすると、これらのファイルは自動的に圧縮が解除されます。)

Adaptec EZ-SCSI をインストールするには、*ThinkPad* をセレクトドック III システムにドッキングしてから、オペレーティング・システム別の指示に従います。

注

SCSI ハードウェア構成を変更した場合は、Adaptec EZ-SCSI を再インストールする必要があります。これによって EZ-SCSI が構成ファイルを更新し、適切なデバイス・ドライバーとその他のファイルがメモリーにロードされるようになります。

たとえば、CD-ROM ドライブを SCSI ポートに接続してから EZ-SCSI を再インストールすると、CD-ROM デバイス・ドライバーが構成ファイルに追加され、適切なドライブ名がその新しい装置に割り当てられます。

Windows 用 EZ-SCSI のインストール

Windows 用 Adaptec EZ-SCSI をインストールするには、以下の手順に従ってください。

注: ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングしてから、オペレーティング・システム別の指示に従ってください。

- 1** Windows を始動します。
- 2** セレクトドック・オプション・ディスクットをディスクット・ドライブに挿入します。
- 3** プログラム マネージャのメニュー・バーで、アイコン(**F**) を選択し、ファイル名を指定して実行(**R**) を選択します。ダイアログ・ボックスが表示されたら、A ドライブを使用している場合は a:¥setup、B ドライブを使用している場合は b:¥setup と入力します。
- 4** **OK** ボタンをクリックします。メッセージが表示され、Adaptec EZ-SCSI がメモリーにロードされます。
- 5** **Adaptec EZ-SCSI** のインストールをクリックして、インストールを続行します。

ヘルプ情報を表示するには、どの画面からでもヘルプ(**H**) をクリックしてください。ヘルプ・ウィンドウを閉じるには、ファイル(**F**)を選ん

でからヘルプの終了(**X**)を選ぶか、そのヘルプ・ウィンドウの左上隅のコントロール・メニュー・ボックスをダブル・クリックします。

- 6** 画面の指示に従います。続行、インストール、または **OK** ボタンをクリックして、インストールを続行し、EZ-SCSI の省略時値を受け入れます。別のディレクトリーを指定したり、構成ファイルの設定を変更したりする場合は、画面の指示に従います。

これで、EZ-SCSI のインストールが完了しました。

DOS 用 EZ-SCSI のインストール

EZ-SCSI の DOS バージョンには、数本のフォーマット・ユーティリティと、オーディオ CD プレイヤー・アプリケーションも含まれています。

注

DOS 用の Adaptec EZ-SCSI は、Windows アプリケーションや Windows 用 ASPI はインストールしません。お手持の ThinkPad に Microsoft Windows 3.1 がインストールされている場合は、A-3ページの『Windows 用 EZ-SCSI のインストール』の説明に従ってください。

DOS 用 Adaptec EZ-SCSI をインストールするには、以下の手順に従ってください。

注: ThinkPad をセレクトドック III システムにドッキングしてから、オペレーティング・システム別の指示に従ってください。

- 1** セレクタドック・オプション・ディスクレットを ThinkPad のディスクレット・ドライブに挿入します。
- 2** DOS のプロンプトで、ドライブ名をそのディスクレットを挿入したドライブ名 (A または B) に変更します。
- 3** dosinst と入力して **Enter** キーを押します。メッセージが表示され、Adaptec EZ-SCSI がメモリーにロードされます。
- 4** **Enter** キーを押してインストールを続行します。

5 画面の指示に従います。どの画面でも、EZ-SCSI の省略時値を受け入れるには **Enter** キーを押します。(EZ-SCSI がシステム構成ファイルの変更を始めた後で続行するには、**Esc** キーを押してください。)

別のディレクトリーにファイルをコピーしたり、構成ファイルの設定を変更したりする場合は、画面の指示に従います。詳細を表示するには、表示したいウィンドウで **F1** を押します。

6 最後の画面で、システムに Adaptec EZ-SCSI はインストールされました。とメッセージが表示されたら、**Enter** キーまたは **Esc** キーを押して EZ-SCSI を終了します。続いて ThinkPad をリブートします。

これで、EZ-SCSI のインストールが完了しました。

オンライン情報

Adaptec EZ-SCSI には、EZ-SCSI の機能と SCSI 装置についてのオンライン情報があります。この情報について以下に簡単に説明します。

Windows 環境では、Adaptec SCSI グループの中のアイコンをダブルクリックして、これらのアプリケーションやファイルを表示できます。

Adaptec SCSI 接続機器表示 (Windows のみ)

システムにある SCSI 装置についての情報を表示できます。装置を表すアイコンをダブルクリックすると、以下の情報が表示されます。

サポートされる機能

製造元

モデル番号

記憶容量

取外し可能メディア・ドライブの中のメディアのロック、ロック解除、およびイジェクトを行うこともできます。

詳細については、オンライン・ヘルプを参照してください。

フォーマット・ユーティリティー

Adaptec EZ-SCSI には、SCSIFMT と AFDISK の 2 つのフォーマット・ユーティリティーが含まれています。これらのユーティリティーは、DOS または Windows 用の EZ-SCSI をインストールするとハード・ディスクにコピーされます。

コマンド	機能
SCSIFMT	<p>SCSIFMT は、SCSI ハード・ディスク、取外し可能媒体、ディスク・ドライブ、および光磁気ディスク・ドライブ用の低レベルのフォーマット・ユーティリティーです。ディスク・ドライブにデータを格納する前に、SCSIFMT でディスク・ドライブをスキャンして損傷を調べることもできます。</p> <p>SCSIFMT を実行する前に、Windows を終了させなければなりません。このユーティリティーは、Windows の MS-DOS のプロンプトからは実行できません。</p> <p>➡A-8ページの『SCSIFMT の実行』。</p>
SCSIFMT/L	<p>DOS プロンプトから SCSIFMT を始動するときこのコマンドを使用すれば、複数の論理装置をサポートする SCSI ディスク・ドライブをフォーマットすることができます。</p>

コマンド	機能
AFDISK	<p>AFDISK は、SCSI ハード・ディスク、取外し可能媒体、および光磁気ディスク・ドライブ用のフォーマット・ユーティリティです。AFDISK を使用して次のことができます。</p> <p>SCSI ハード・ディスク・ドライブをフォーマットする。 取外し可能媒体を、標準ハード・ディスク・フォーマット、OS/2 ディスケット・フォーマット、または DOS/V フォーマットにフォーマットする。 区画を追加する。または、DOS FDISK ユーティリティで作成された区画を削除する。 非 DOS 区画を削除する。</p> <p>ホスト・アダプター BIOS (Basic Input/Output System) によって管理されていない SCSI ディスク・ドライブに対して区画を作成するには、DOS の FDISK ユーティリティではなく AFDISK を使用してください。</p> <p>ホスト・アダプター BIOS によって制御されている SCSI ディスク・ドライブをフォーマットまたは区画作成するには、AFDISK ではなく DOS の FDISK ユーティリティを使用してください。</p> <p>AFDISK によって作成した区画は、ThinkPad をブートしたときに ASPIDISK ドライバーでアクセスできます。AFDISK によって作成した区画は、DOS 区画と互換性があります。</p> <p>AFDISK でディスク・ドライブに区画を作成した後、その装置を使用する前に、その装置に対して DOS FORMAT ユーティリティを実行します。こうすれば、そのディスク媒体に不良がないようにすることができます。</p> <p>➡A-11ページの『AFDISK の実行』。</p>

SCSIFMT の実行

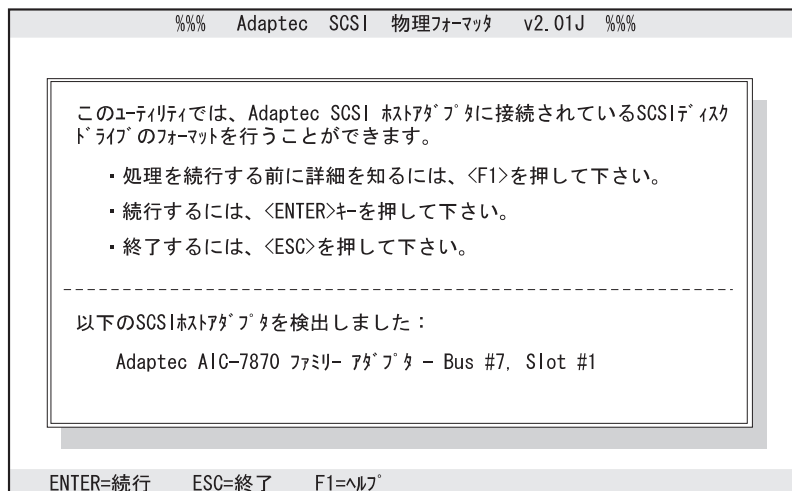
注:

1. SCSIFMT を実行する前に、フォーマットしたいディスク・ドライブがホスト・アダプターに接続されていて、電源が入っていることを確認します。取外し可能媒体をフォーマットする場合は、それがディスク・ドライブに挿入されていることを確認します。
2. SCSIFMT ウィンドウについてのオンライン・ヘルプ情報を表示するには、**F1** キーを押します。ヘルプ・ウィンドウを終了するには、**Esc** を押します。

以下の手順に従って SCSIFMT を実行します。

- 1** ディレクトリーを SCSIFMT.EXE が存在するディレクトリー (省略時のディレクトリーは C:\¥SCSI) に変更し、scsifmt と入力してプログラムを起動します。

以下のウィンドウが現れます。



SCSIFMT は、ThinkPad をスキャンして Adaptec SCSI ホスト・アダプターを探し、ウィンドウの一番下にホスト・アダプターの情報を表示します。上のウィンドウでは、SCSIFMT はバス #7、スロット #1 に AIC-7870 ファミリー・アダプターを検出しました。

- 2** **Enter** キーを押して続行します。(**F1** を押してヘルプ・ウィンドウを見たり、**Esc** を押して SCSIFMT を終了したりすることもできます。)

以下のウィンドウが現れます。



- 3** カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー (↑ または ↓) を使用してディスク・ドライブを選び、**Enter** キーを押します。

- 4** 次のウィンドウが現れたら、以下のいずれかを選択します。

フォーマット ディスク・ドライブをフォーマットする
ベリファイ ディスク・ドライブに不良がないかどうかスキャンする
選択したら **Enter** を押します。

重要

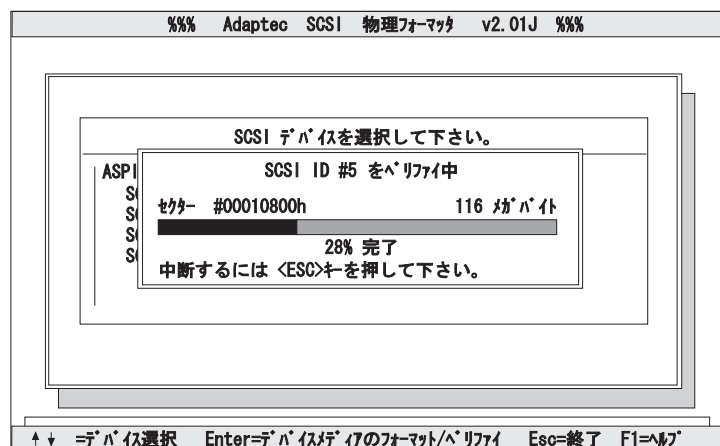
物理フォーマットはディスクからすべてのデータを消去します。
フォーマットする前に、そのディスクにある重要なデータはバックアップを取ってください。

フォーマットを選んだときは、そのディスクをフォーマットしたいことを確認します (またはフォーマット・オプションの実行を中止します)。SCSIFMT がディスク装置をフォーマットしてい

る間待ちます。大容量のディスク・ドライブでは長時間かかる場合があります。

ベリファイを選んだ場合は、ディスク媒体の損傷をスキャンしたいことを確認します（またはベリファイ・オプションの実行を中止します）。以下のようなウィンドウが表示されます。

注: **Esc** キーを押せばいつでもこの処理を中止できます。中止してもディスクを損傷することはありません。ディスク全体の損傷をスキャンする前に処理を中止するだけです。



SCSIFMT がディスクの損傷箇所を発見したときは、その損傷についての情報が表示されます。これによって、ディスク・ドライブ上の不良ブロックの割当てを外し、データが不良ブロックに格納されないようにできます。

- 5 必要に応じて、ステップ 3 と 4 を繰り返し、他のディスク・ドライブをフォーマットまたはベリファイします。

処理を終えたら、**Esc** キーを押して SCSIFMT を終了します。

AFDISK の実行

注:

1. AFDISK を実行する前に、フォーマットまたは区画を作成したいディスク・ドライブがホスト・アダプターに接続されていて、電源が入っていることを確認してください。取外し可能媒体ドライブがあるときは、取外し可能媒体がそのドライブに挿入されていることを確認してください。
2. AFDISK を実行する前に Windows を完全に終了しなければなりません。このユーティリティーは、Windows の MS-DOS のプロンプトからは実行できません。
3. AFDISK ウィンドウについてのオンライン・ヘルプ情報を表示するには、**F1** を押します。ヘルプ・ウィンドウを終了するには、**Esc** を押します。

以下の手順に従って AFDISK を実行します。

- 1** ディレクトリーを AFDISK.EXE が存在するディレクトリー(省略時のディレクトリーは C:¥SCSI)に変更し、`afdisk` と入力してプログラムを起動します。以下のウィンドウが現れます。



AFDISK は、ホスト・アダプター BIOS によって制御されている取外し可能媒体ドライブと SCSI 装置を含む、取付け済のすべての

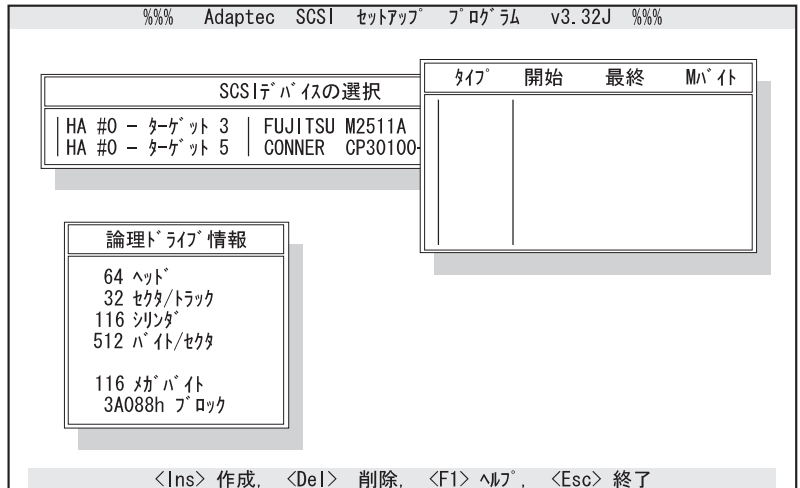
SCSI ディスク・ドライブを一覧表示します。それぞれの装置について、左から右に次の情報が表示されます。

HA # ホスト・アダプター番号。ホスト・アダプターが 1 つしかないときは、この番号はゼロです。

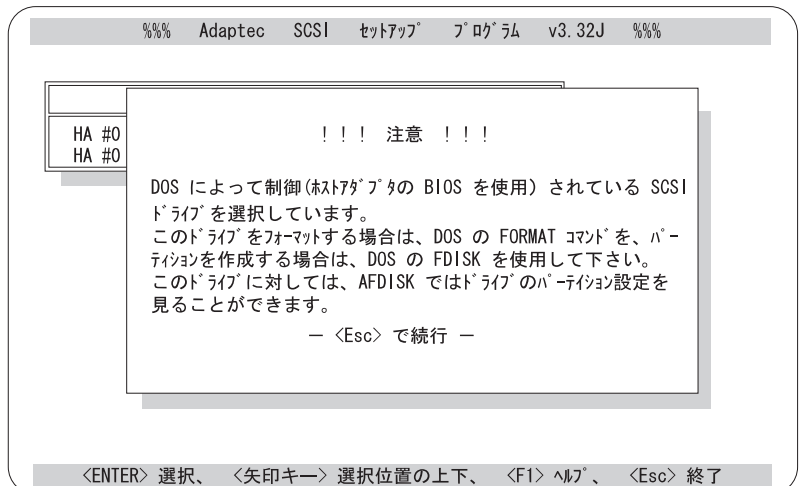
ターゲット # その装置の SCSI ID 番号。

デバイス名 その SCSI 装置のベンダー名とプロダクト ID。

- 2 カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー（↑ または ↓）を使用してディスク・ドライブを選び、**Enter** キーを押します。ディスクがフォーマットされると、以下のようなウィンドウが表示されます。



選んだ装置がホスト・アダプター BIOS によって制御されているときは、AFDISK は次のような画面を表示します。この装置の情報は表示はできますが、AFDISK でその区画を変更することはできません。



そのディスク媒体がフォーマットされていないときは、区画を作成する前にそのディスク媒体をフォーマットしなければなりません。このためには、ウィンドウの指示に従ってください。使用可能なフォーマット・オプションを説明している AFDISK のオンライン・ヘルプをご覧ください。

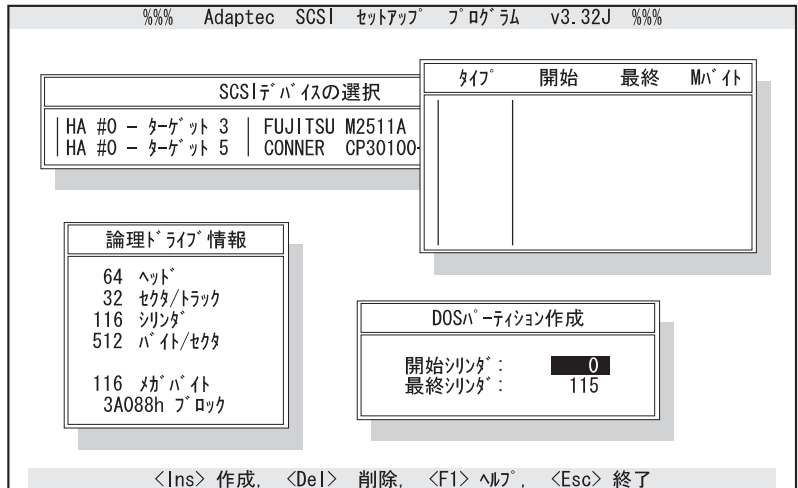
光磁気ディスク (MO) 装置などの、ディスク・フォーマットを持つ取り外し可能媒体装置を選んだときは、AFDISK がそのディスク・フォーマットを削除したいかどうかを尋ねてきます。その媒体を別のフォーマットにフォーマットし直さないときは、いいえを選んでください。

そのディスク媒体がフォーマット済みの場合は、AFDISK は次の図に示すように、ウィンドウの左下の隅に選択した物理ドライブについての情報を表示します。次の表は、Adaptec SCSI ホスト・アダプターが使用する装置構成表示です。

ドライブ容量	装置構成表示	シリンダー数
1 GB 未満	トラック当たり 64 ヘッド 32 セクター	利用可能な容量 (メガバイト) に等しい
1 GB 以上	トラック当たり 255 ヘッド 63 セクター	利用可能な容量の 8 MB 当たり 1 シリンダー

そのドライブに現在存在している区画が、ウィンドウの右上の隅に表示されます。(前の図に示した例では、区画はありません。)カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー (↑ or ↓) を使用して区画を選びます。区画を削除するには、**Del** キーを押してから、はいを選びます。

- 3 新しい区画を作成するには、**Ins** キーを押します。以下のウィンドウが現れます。



ウィンドウの右下に表示されている「DOS 区画作成」ウィンドウは、省略時にはディスク・ドライブの全容量に等しい 1 つの区画を作成することを表しています。この例では 85 MB です。（各シリンダーは 1 MB です。シリンダーには 0 から 84 の番号が付けてあります。）

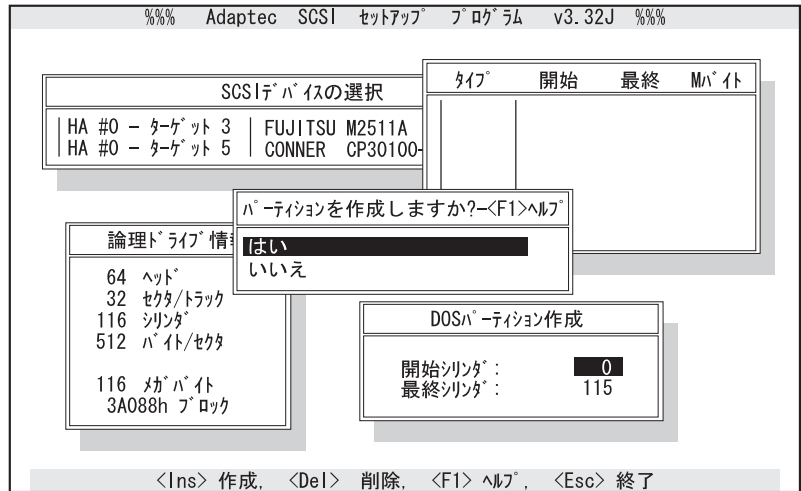
ディスク・ドライブの区画を 1 つだけにする場合は、ステップ 5 に進んでください。

- 4 開始シリンダーと最終シリンダーの値を変更するには、カーソル上方向移動キーまたは下方向移動キー（↑ or ↓）を使用してこれらを選び、別の値を指定します。

ディスク・ドライブに複数の区画を作成するときは、これらの値を変更しなければなりません。この例では、最終シリンダーの値を 44 に変更して 45 MB の区画を作成できます。その後、シリンダー 45 から 84 に対して 40 MB の区画を作成できます。各区画は E や F などの別のドライブ名を割り当てられます。

注: ディスクの実際のシリンダー数よりも大きい値などの無効な値を入力すると、AFDISK がエラー・メッセージを表示します。

5 必要なシリンダー数を入力したら、**Esc** キーを押します。以下のウィンドウが現れます。

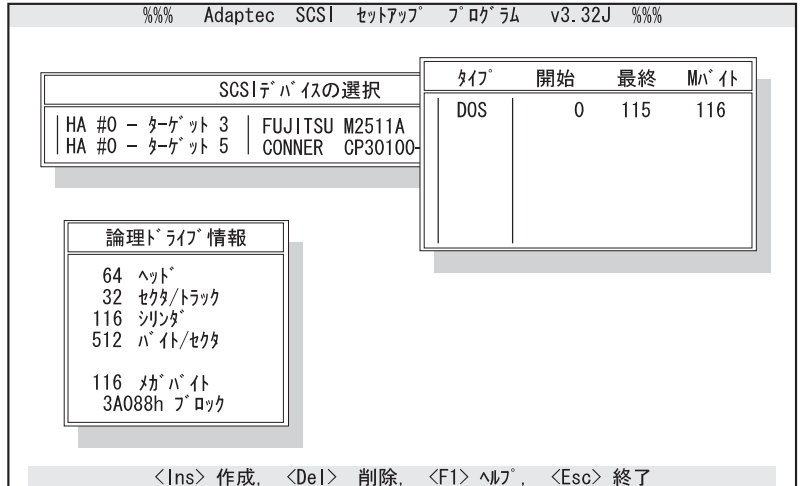


6 区画を作成するには、はいを選び **Enter** キーを押します。

区画をもっと作成したいときは、**Ins** キーを押して、ステップ 3、4、および 5 を繰り返します。

使用している DOS のバージョンに応じて、区画のサイズに制限があります。IBM J6.3V 以降の場合、2.1 GB/区画で最大 1 GB/ドライブまでです。

区画を作成すると、AFDISK は次の図に示すように区画を右上に表示します。



7 **Esc** キーを押して「SCSI デバイスの選択」ウィンドウに戻ります。別のディスク・ドライブをフォーマットしたり、そこに区画を作成したりするときは、一覧表からその装置を選びます。

8 AFDISK を終了するには、**Esc** キーを押し、終了したいかどうかを尋ねられたときには **はい** を選びます。

ディスクの区画を変更したときは、新しく作成した区画にアクセスするために ThinkPad のリポートが必要であることを知らせるメッセージが表示されます。

注: ディスクの区画を追加または削除するには、EZ-SCSI を再インストールしてシステム構成を更新してください。

セレクトドック III (拡張ユニット) の仕様は以下のとおりです。

寸法

奥行		418.5 mm
高さ	前面	85.5 mm
	背面	139.7 mm
幅		393.3 mm
重量		7.3 kg

環境

温度、相対湿度、湿球温度

電源オン時の環境	温度	5°C ~ 35°C
	相対湿度	8% ~ 95% (結露しないこと)
	最大湿球温度	29.4°C
電源オフ時の環境	温度	5°C ~ 43°C
	相対湿度	8% ~ 95% (結露しないこと)
	最大湿球温度	29.4°C
保存時の環境	温度	-20°C ~ 60°C
	相対湿度	5% ~ 95% (結露しないこと)
	最大湿球温度	29.4°C

最大海拔高度

2435 m (非加圧状態)

電気特性

発熱量	基本構成		181 BTU/時 †
	最大構成		555 BTU/時 †
入力電圧-正弦波入力 (50 または 60 Hz)	低域	最小	100 V ac
		最大	125 V ac
	高域	最小	200 V ac
		最大	240 V ac
入力キロ・ボルト・アンペア (k VA) (近似値)	出荷時構成		0.053 k VA
	最大構成		0.163 k VA
注: † 英国熱量単位			

外部インターフェース

SCSI ポート	SCSI-2 50 ピン、高密度
ゲーム・ポート	D-sub 15 ピン
オーディオ出力	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
スピーカー入力	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
ヘッドホン	ステレオ・ミニ・ジャック 3.5 mm
PCMCIA スロット	タイプ I または タイプ II の PC カードを 2 枚、もしくはタイプ III の PC カードを 1 枚
PCI/ISA 共用スロット	32 ビット PCI バス・コネクタを 3 個 16 ビット ISA バス・コネクタを 2 個

IBM 電源コード

安全のために、IBM では接地プラグの付いた電源コードを提供しています。感電を防止するために、必ず正しい接地端子の付いた電源コードとプラグを使用してください。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

本書中の以下の用語は、IBM コーポレーションの米国、その他の国における商標です。

Help Center	SelectaDock
IBM	ThinkPad
OS/2	Wake on LAN

以下の用語は、他社の商標です。

Adaptec	Adaptec, Inc.
AHA	Adaptec, Inc.
AIC	Adaptec, Inc.
EZ-SCSI	Adaptec, Inc.
MicroSaver	Kensington Microware, Inc.
Microsoft	Microsoft Corporation
PCMCIA	Personal Computer Memory Card International Association
Sound Blaster	Creative Technology, Inc.

Windows は、Microsoft Corporation の商標です。

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

- アダプターの問題 6-19
- アダプター・カードのセットアップ、DOS の場合 3-9
- アダプター・カードのセットアップ、Windows および OS/2 Warp の場合 3-9
- アダプター・カード・スロット 2-4, 2-13
- イーサネット・アダプター・カード 5-4
- 位置 1-6
- 依頼、修理の 6-25
- インジケーター 1-7
- インストール、OS/2 Warp の 5-3
- インストール、Windows NT の 5-3
- ウォーム・ドッキングとホット・ドッキング 1-19
- 取扱い、内部オプションの 2-2
- ウルトラベイ II 2-3, 2-6
- ウルトラベイ II、オプションの取付け 2-6
- オーディオの問題 6-18
- オプション・ディスクレット 1-9

〔カ行〕

- 感電の危険、防止 vi
- 感電の危険防止法 vi
- 機能 1-4
- 機能、オペレーティング・システム別の 1-5
- 機密保護
 - 機密保護キー 4-3
- 機密保護機能 4-2
- 共用、セレクトアドック III システムの 4-5
- ケーブル・ロック 4-3
- 警告インジケーター 6-3
- コールド・アンドッキング 1-18
- コールド・ドッキング 1-16

〔サ行〕

- 再現できない問題 6-21
- サウンド・プラスターの問題 6-18
- サポートされるシステム 1-3
- サポートされるドライブ 2-3
- 資源の競合 6-22
- システム資源の割当て 3-11
- 実行、テストの 6-23
- 始動時の問題 6-14
- 制限 5-6, 5-7
- 製品仕様
 - 温度 B-2
 - 外部インターフェース B-3
 - 最大海拔高度 B-2
 - 湿球温度 B-2
 - 寸法 B-1
 - 相対湿度 B-2
 - 電気 B-3
 - 電源コード B-4
- 製品の確認 1-2
- セットアップの問題 6-13
- セレクトアドック III (拡張ユニット)の取外し方法 1-14
- セレクトベースの接続方法 1-11
- 装置イジェクト・ロック 4-3
- 装置スペース 2-4, 2-10
- 装置スペースの問題 6-16
- 装置の取付け
 - CD-ROM ドライブ 2-6
 - DVD 2-6
 - FDD 2-6
 - HDD 2-6
- ソケット・サービス 5-4
- 外付け SCSI ドライブ 2-20

〔タ行〕

- テスト、ThinkPad の 6-7
- 電源コード 1-2
 - 部品番号 B-4

電源装置 5-5
ドッキング、ThinkPad の 1-15
ドライブ名 5-2
トラブルシューティング 6-1
オーディオ装置 6-18
サスペンドまたは再開 6-12
トラブルシューティング・ガイド 6-10
取付け、オプションの 2-6, 2-10, 2-13,
2-16, 2-18, 2-20

〔八行〕

バッテリーの充電 5-5

〔マ行〕

マルチユーザー・ロック 4-4
目で発見できる問題 6-11

E

EZ-SCSI A-2
EZ-SCSI のインストール A-3, A-4

I

IDE セットアップ、DOS の場合 3-2
IDE セットアップ、Windows と OS/2 Warp
の場合 3-3

M

MIDI/ジョイスティックの問題 6-19
MIDI/ジョイスティック・ポート 2-18

P

PC カードの問題 6-14
PC カード・スロット 2-5, 2-16
PC カード・ロック 4-3
PC Card Director 1-10

S

SCSI サブシステム・テスト 6-24
SCSI セットアップ 3-6
SCSI 装置の問題 6-17
SCSI デバイス・ドライバ 5-4
SCSI の終端 3-8
SCSI ID 3-7

T

ThinkPad 機能設定プログラム 1-10

U

USB ポート 2-5
USB ポートの問題 6-20

W

Wake on LAN の問題 6-21

IBM

Printed in Japan

日本アイビーエム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106
TEL (03) 3586-1111



SA88-5967-

Grid Definitions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
NNTE	C79XFSET	i	
COL3	C79XFSET	i	

Table Definitions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
CONT	C79XFSET	i	
SOFT	C79XFSET	i	
SHAD	C79XFSET	i	
THEAD	C79XFSET	i	
CHAP7	C79XFSET	i	6-11, 6-13, 6-14, 6-14, 6-15, 6-16, 6-17, 6-18, 6-18, 6-19, 6-19, 6-20, 6-21, 6-21, 6-22
COLONE	C79XFSET	i	
COLBLK	C79XFSET	i	
NOTE	C79XFSET	i	2-8, 2-12, 2-15, 3-6, 4-5
NT	C79XFSET	i	1-8, 1-8, 1-15, 1-15, 1-17, 1-19, 2-7, 3-2, 3-9
INT	C79XFINT	vii	vii
TBL1	C79XFCH1	1-4	1-4, 1-4
TMP1	C79XFCH1	1-4	1-4
MATRIX	C79XFCH1	1-5	1-5, 1-5
TEMP	C79XFCH1	1-5	1-5, 1-5
DEF	C79XFCH1	1-7	1-7, 1-7
NUM1	C79XFCH1	1-7	1-7
EXP	C79XFCH6	6-3	
HEAD	C79XFCH6	6-4	6-5
TABLE	C79XFCH6	6-6	6-6
TEM2	C79XFCH6	6-6	6-6, 6-6, 6-6
SPEC	C79XFAXB		

Headings

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
CHP1	C79XFCH1	1-1	第1章, セレクタドック III システムの紹介
LOCATE	C79XFCH1	1-6	位置
INDCTRS	C79XFCH1	1-7	インジケータ
INF	C79XFCH1	1-8	セレクタドック III システムを使用するための準備 (ThinkPad 760/765) vii, 1-15
BASESET	C79XFCH1	1-11	セレクタドック III (拡張ユニット)へのセレクトベースの接続
UNDOCK	C79XFCH1	1-14	セレクタドック III システムからのセレクトベースの取外し
COLDD	C79XFCH1	1-15	ThinkPad のセレクタドック III システムへのドッキング
OPTIONS	C79XFCH2	2-1	第2章, オプションの取付け
HANDOPT	C79XFCH2	2-2	内部オプションの取扱いについて
INSTD	C79XFCH2	2-3	サポートされる装置
CDROM	C79XFCH2	2-6	ウルトラベイ II トレイへの装置の取付け 6-15, 6-15
HHIGH	C79XFCH2	2-10	装置スペースへの装置の取付け
ADPCRD	C79XFCH2	2-13	PCI アダプター・カードまたは ISA アダプター・カードの取付け 6-19
PCCD	C79XFCH2	2-16	PC カードの取付け 6-14
MIDI	C79XFCH2	2-18	MIDI/ジョイスティック・ポートの使い方 6-19
EXSCSI	C79XFCH2	2-20	外付け SCSI 装置の接続
CONFIG	C79XFCH3	3-1	第3章, システムの構成 2-8, 2-12, 2-15
IDESET	C79XFCH3	3-2	IDE 装置のセットアップ
SCSISSET	C79XFCH3	3-6	SCSI 装置のセットアップ 2-20
SETCARD	C79XFCH3	3-9	アダプター・カードのセットアップ
RESOLVE	C79XFSOS	3-11	システム資源の割当て 1-17, 3-16

SECURE	C79XFCH4	4-1	第4章, 機密保護機能を使用する
COMPL	C79XFCH4	4-3	ケーブル・ロック 4-2
MULOCK	C79XFCH4	4-4	マルチユーザー・ロック
SHARES	C79XFCH4	4-5	セレクトアドック III システムの共用時の管理
SETA	C79XFCH4	4-5	各ユーザーがパスワードを管理している場合 4-5
SETB	C79XFCH4	4-6	管理者がパスワードを管理している場合 4-5
HINT	C79XFCH5	5-1	第5章, ヒントと制限
SOLVP	C79XFCH6	6-1	第6章, トラブルシューティング
ATTF	C79XFCH6	6-3	警告インジケーター
ISO	C79XFCH6	6-5	問題を起こしている装置の判別 6-25
CHKTP	C79XFCH6	6-7	ThinkPad の検査 6-6
TESTC	C79XFCH6	6-7	ThinkPad のテスト 6-7
ISO2	C79XFCH6	6-8	ThinkPad とセレクトベースの組合せの検査 6-6, 6-7
ISO3	C79XFCH6	6-8	セレクトアドック III システムの検査 6-6
SHOOTG	C79XFCH6	6-10	トラブルシューティング・ガイド 6-6, 6-6, 6-9
VISUALP	C79XFCH6	6-11	目で発見できる問題 6-10, 6-13, 6-13, 6-13
SETUPP	C79XFCH6	6-13	セットアップの問題 6-9, 6-9, 6-9, 6-10
STARTP	C79XFCH6	6-14	始動時の問題 6-9, 6-10
PCCP	C79XFCH6	6-14	PC カードの問題 6-10
OPTIONP	C79XFCH6	6-15	ウルトラベイ II 装置の問題 6-10
HINCHP	C79XFCH6	6-16	装置スペースの問題 6-10
SCSIP	C79XFCH6	6-17	SCSI 装置の問題

			6-10
AUDIOP	C79XFCH6	6-18	オーディオの問題 6-10
SBP	C79XFCH6	6-18	サウンド・プラスターの問題 6-10
MIDIP	C79XFCH6	6-19	MIDI/ジョイスティック (ゲーム) ポートの問題 6-10
ADAPTP	C79XFCH6	6-19	アダプターの問題 6-10
USB	C79XFCH6	6-20	USB ポートの問題 6-10
LAN	C79XFCH6	6-21	Wake on LAN の問題 6-10
INTERMP	C79XFCH6	6-21	再現できない問題 6-10
RSCP	C79XFCH6	6-22	資源の競合の問題 6-10, 6-14
TEST	C79XFCH6	6-23	テストの実行 6-10, 6-14, 6-14, 6-15, 6-15
ITEST	C79XFCH6	6-23	内蔵ドライブのテスト 6-18, 6-20
STEST	C79XFCH6	6-24	SCSI サブシステム・テスト 6-16, 6-17
SERVICE	C79XFCH6	6-25	修理の依頼
EZSCSI	C79XFAXA	A-1	付録A, SCSI ソフトウェアを使用する 3-6
INSTEZ	C79XFAXA	A-2	EZ-SCSI のインストール 6-17, 6-17
EZWIN	C79XFAXA	A-3	Windows 用 EZ-SCSI のインストール A-2, A-4
EZDOS	C79XFAXA	A-4	DOS 用 EZ-SCSI のインストール A-2
SCSIFMT	C79XFAXA	A-8	SCSIFMT の実行 A-6
AFDISK	C79XFAXA	A-11	AFDISK の実行 A-7
SPECS	C79XFAXB	B-1	付録B, 製品仕様 6-18
SPCELC	C79XFAXB	B-3	電気特性

CORDS	C79XFAXB	B-4	IBM 電源コード
NOTIC	C79XFNTI	C-1	付録C, 特記事項 ii

List Items

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
01	C79XFCH1	1-16	1 1-17
REMOVC	C79XFCH2	2-13	2
RES	C79XFCH2	2-15	7
ST3	C79XFAXA	A-9	3 A-10
ST4	C79XFAXA	A-9	4 A-10
ST5	C79XFAXA	A-9	4
ST33	C79XFAXA	A-15	3 A-16
ST44	C79XFAXA	A-15	4 A-16
ST55	C79XFAXA	A-16	5 A-15, A-16

Revisions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
OCEAN2	C79XFSET	i	
DEV2	C79XFSET	i	
LEE2	C79XFSET	i	
YAN	C79XFSET	i	
ADD	C79XFSET	i	
LEE	?	?	?

2-20, 2-20

Spots

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
SYSRE	C79XFCH3	3-16	(no text) 3-9

Processing Options

Runtime values:

```

Document fileid ..... C79XF MST SCRIPT
Document type ..... USERDOC
Document style ..... C79XF MST
Profile ..... EDFPRF40
Service Level ..... 0014
SCRIPT/VS Release ..... 4.0.0
Date ..... 97.08.28
Time ..... 19:28:04
Device ..... PSA
Number of Passes ..... 3
Index ..... YES
SYSVAR G ..... INLINE
SYSVAR X ..... YES
    
```

Formatting values used:

```

Annotation ..... NO
Cross reference listing ..... YES
Cross reference head prefix only ..... NO
Dialog ..... LABEL
Duplex ..... YES
DVCF conditions file ..... (none)
DVCF value 1 ..... (none)
DVCF value 2 ..... (none)
DVCF value 3 ..... (none)
DVCF value 4 ..... (none)
DVCF value 5 ..... (none)
DVCF value 6 ..... (none)
DVCF value 7 ..... (none)
DVCF value 8 ..... (none)
DVCF value 9 ..... (none)
Explode ..... NO
Figure list on new page ..... YES
Figure/table number separation ..... YES
Folio-by-chapter ..... YES
Head 0 body text ..... (none)
Head 1 body text ..... 第
Head 1 appendix text ..... 付録
Hyphenation ..... NO
Justification ..... NO
Language ..... JAPA
Keyboard ..... 395
Layout ..... OFF
    
```

Leader dots YES
Master index (none)
Partial TOC (maximum level) (none)
Partial TOC (new page after) INLINE
Print example id's NO
Print cross reference page numbers YES
Process value (none)
Punctuation move characters (none)
Read cross-reference file (none)
Running heading/footering rule NONE
Show index entries NO
Table of Contents (maximum level) 2
Table list on new page YES
Title page (draft) alignment CENTER
Write cross-reference file (none)

Imbed Trace

Page 0	C79XFSET
Page i	C79XFVNT
Page iv	C79XFNTC
Page vi	C79XFINT
Page viii	C79XFCH1
Page 1-19	C79XFCH2
Page 2-20	C79XFCH3
Page 3-11	C79XFSOS
Page 3-16	C79XFCH4
Page 4-7	C79XFCH5
Page 5-7	C79XFCH6
Page 6-26	C79XFAXA
Page A-17	C79XFAXB
Page B-4	C79XFNTI
Page X-1	DBCS DSMDBIX